

秋田県文化財調査報告書第352集

# ヲ フ キ 遺 跡

—県営ほ場整備事業(大砂川地区)に係る埋蔵文化財発掘調査報告書II—

2003・3

秋田県教育委員会

シンボルマークは、北秋田郡森吉町白坂(しろざか)遺跡  
出土の「岩偶」です。  
縄文時代晩期初頭、1992年8月発見、高さ7cm、凝灰岩。

を ふ き  
ヲ フ キ 遺 跡

—県営ほ場整備事業(大砂川地区)に係る埋蔵文化財発掘調査報告書Ⅱ—

2003・3

秋田県教育委員会

## 序

本県にはこれまでに発見された約4,600箇所の遺跡をはじめとして、先人の遺産である埋蔵文化財が豊富に残されています。これらの埋蔵文化財は、地域の歴史や伝統を理解し、未来を展望した彩り豊かな文化を創造していくうえで、欠くことのできないものであります。

一方、農業分野においては、農業を取り巻く内外の厳しい情勢に対処するために経営規模拡大を軸とする基盤整備が急務となっており、ほ場整備事業の推進によって農業経営のさらなる効率化が求められています。

本教育委員会では、これら地域開発との調和をはかりながら、埋蔵文化財を保存し、活用することに鋭意取り組んでおります。由利郡象潟町大砂川地区では、その一環として、ほ場整備工事に先立ちヲフキ遺跡の発掘調査を、平成11年度に引き続き、平成12年度にも実施いたしました。

平成12年度の調査では、縄文時代後期の墓地と祭りの場やそれらに伴う多数の遺物などが見つかり、当時暮らした人々の生活の一端が明らかになっております。

本書がふるさとの歴史資料として広く活用され、埋蔵文化財保護の一助となることを心から願うものであります。

最後になりましたが、発掘調査ならびに本報告書の刊行にあたり、御協力をいただきました秋田県由利総合農林事務所、象潟町、象潟町教育委員会、象潟町土地改良区など関係各位に対し、厚くお礼申し上げます。

平成15年3月

秋田県教育委員会

教育長 小野寺 清

## 例　　言

1. 本書は、県営ほ場整備事業(大砂川地区)に係る、秋田県由利郡象潟町大砂川に所在するヲフキ遺跡の発掘調査報告書である。
2. 今回の発掘調査は、平成12年5月から9月にかけて実施した。ヲフキ遺跡は平成元年度に大砂川地区農免農道整備事業に伴い、平成11年度に県営ほ場整備事業(大砂川地区)に伴い、それぞれ発掘調査を実施している。本書では、平成元年度調査を第1次調査、平成11年度調査を第2次調査、今回報告する平成12年度調査を第3次調査と呼ぶ。
3. オフキ遺跡第3次調査の成果については、既にいくつかの概要報告等を行っている。いずれも整理途上の段階のものであり、本書の記載内容と相違がある場合は、本書をもって訂正するものとする。
4. 本書の第1章第1節、第2章、第3章第1節は柴一郎が執筆し、「秋田県文化財調査報告書322集 オフキ遺跡—県営捕ほ場整備事業(大砂川地区)に係る埋蔵文化財文化財調査報告書I—2001・3 秋田県教育委員会」に掲載されたものを一部加筆・修正して再掲載したものである。  
第1章第2節、第3章第2・3節の執筆は小林芳行が行い、第3章第4節、第4章、第6章の執筆と編集は柴田陽一郎が行った。
5. 土層断面図等の土色の表記は、農林水産省農林水産技術会議監修 財團法人日本色彩研究所色票監修「新版標準土色帖」に掲載した。
6. 本書第2図は、秋田県由利総合農林事務所提供的1/2500平面図を元に作成した。また、第3図は、国土地理院発行1/50000地形図「象潟」・「吹浦」を合成して作成した。
7. 自然科学的分析等は以下の機関に委託した。  
放射性炭素<sup>14</sup>C年代測定、顔料分析、骨同定、 株式会社 パレオ・ラボ  
黒曜石产地同定 有限会社 遺物分析研究所
8. 発掘調査および遺構・遺物の整理にあたって、県内の教育委員会・諸機関のほか、以下の方々および諸機関から御指導・御助言を賜った。記して感謝の意を表す。(順不同、敬称略)  
梅津一史(秋田県立博物館学芸主事)、小林圭一(山形県埋蔵文化財センター)  
鈴木克彦(青森県立郷土館)

## 凡　例

1. 本書に掲載した平面図中の方位は、日本測地系平面直角座標第X系座標北である。

2. 各遺構に付している略記号は以下の通りである。

SB—掘立柱建物跡 SK—土坑・土坑墓 SKP—柱穴 SN—焼土遺構 SQ—配石遺構

SQN—屋外炉 SR—土器埋設遺構 SX—性格不明遺構

3. 掲図中のスクリーン・トーンの凡例は、以下の通りである。

遺構



焼土

遺物



アスファルト  
(石器・土器)



朱塗り  
(石器・土器)



擦り (石器)



敲き (石器)



赤変部分 (土器)

4. 遺物の説明における上下左右等は実測図のそれに対応する。また、土器破片で内外両面の撮影を掲載する場合は、断面の左に外面の撮影を、右に内面の撮影をそれぞれ配置した。

5. 表中において、遺物実測図中の遺物を指示する場合、例えば第1図1の遺物では、1-1のように略記する。さらに、土器片の下の文字・数字は出土したグリッド名と層名である。

6. 掲図中の「RP」は土器、「RQ」は石器、「S」は自然石である。

# 目 次

序	
例言	ii
凡例	iii
挿図目次	iv
表目次	vii
図版目次	viii
第1章 はじめ	1
第1節 調査に至る経過	1
第2節 調査要項	2
第2章 遺跡の環境	3
第1節 遺跡の立地と地理的環境	3
第2節 歴史的環境	3
第3章 調査の概要	9
第1節 遺跡の概観	9
第2節 発掘調査の方法	9
第3節 発掘調査の経過	10
第4節 整理作業の方法と経過	12
第4章 調査の記録	13
第1節 基本層序	13
第2節 検出遺構と出土遺物	15
1 I区	15
(1)土坑	15
(2)土器埋設遺構	16
(3)屋外炉	16
(4)配石遺構	64
(5)焼上遺構	64
(6)性格不明遺構	64
(7)柱穴様ピット	64
2 III区	64
(1)土坑	64
(2)掘立柱建物跡	64
(3)配石遺構	65
(4)性格不明遺構	65
(5)柱穴様ピット	65
3 IV区	65
(1)柱穴	65
4 V区	65
(1)土坑	65
(2)土器埋設遺構	66
(3)柱穴様ピット	66
第3節 遺構外出土遺物	66
1 I区	66
(1)縄文時代	66
①土器	66
a 前期	66
b 中期	69
c 後期初頭～晚期前半	69
d 晚期前半	109
②土製品	109
③石器類	110
④石製品	135
⑤骨角器	136
⑥その他	136
(2)平安時代	136
(3)中世	136
(4)近世	136
2 II区	137
(1)縄文時代	137
(2)平安時代	137
(3)近世	137
3 III区	137
(1)縄文時代	137
4 IV区	137
(1)縄文時代	137
(2)平安時代	137
(3)近世	137
5 V区	137
(1)縄文時代	137
(2)平安時代	137
(3)中世	137
(4)近世	137
第5章 自然科学的分析	177
第1節 放射性炭素 <sup>14C</sup> 年代測定	177
第2節 顔料分析	179
第3節 骨同定	184
第4節 黒曜石产地同定	188
第6章 まとめ	213
図版	
抄録	

## 挿図目次

- |   |                                    |
|---|------------------------------------|
| 第1図 ノフキ遺跡の位置                                | 第33図 I 区遺構内出土土器類(13)               |
| 第2図 調査区の位置                                  | 第34図 I 区遺構内出土土器類(14)               |
| 第3図 ノフキ遺跡周辺の遺跡分布                            | 第35図 I 区遺構内出土土器類(15)               |
| 第4図 I 区基本土層図                                | 第36図 I 区遺構内出土土器類(16)               |
| 第5図 I 区検出遺構(1)－土坑(S K)                      | 第37図 I 区遺構内出土土器類(17)               |
| 第6図 I 区検出遺構(2)－土坑(S K)                      | 第38図 I 区遺構内出土土器類(18)               |
| 第7図 I 区検出遺構(3)－土坑(S K)                      | 第39図 I 区遺構内出土土器類(19)               |
| 第8図 I 区検出遺構(4)－土坑(S K)                      | 第40図 I 区遺構内出土土器類(20)               |
| 第9図 I 区検出遺構(5)－土坑(S K)                      | 第41図 I 区遺構内出土土器類(21)               |
| 第10図 I 区検出遺構(6)－土坑(S K)                     | 第42図 I 区遺構内出土土器類(22)               |
| 第11図 I 区検出遺構(7)－土坑(S K)                     | 第43図 I 区遺構内出土土器類(23)               |
| 第12図 I 区検出遺構(8)－土坑(S K)                     | 第44図 I 区遺構内出土土器類(24)               |
| 第13図 I 区検出遺構(9)－土器埋設遺構(S R)                 | 第45図 I 区遺構内出土土器類(25)               |
| 第14図 I 区検出遺構(10)－土器埋設遺構(S R)                | 第46図 I 区遺構内出土石器類(1)                |
| 第15図 I 区検出遺構(11)－土器埋設遺構(S R)・<br>屋外炉(S Q N) | 第47図 I 区遺構内出土石器類(2)                |
| 第16図 I 区検出遺構(12)－配石遺構(S Q)                  | 第48図 I 区遺構内出土石器類(3)                |
| 第17図 I 区検出遺構(13)－配石遺構(S Q)                  | 第49図 I 区遺構内出土石器類(4)                |
| 第18図 I 区検出遺構(14)－配石遺構(S Q)・<br>焼土遺構(S N)    | 第50図 I 区遺構内出土石器類(5)                |
| 第19図 I 区検出遺構(15)－焼土遺構(S N)・<br>性格不明遺構(S X)  | 第51図 I 区遺構内出土石器類(6)・<br>V区遺構内出土石器類 |
| 第20図 I 区検出遺構(16)－柱穴様ピット(S K P)              | 第52図 I 区遺構外出土土器(1)                 |
| 第21図 I 区遺構内出土土器類(1)                         | 第53図 I 区遺構外出土土器(2)                 |
| 第22図 I 区遺構内出土土器類(2)                         | 第54図 I 区遺構外出土土器(3)                 |
| 第23図 I 区遺構内出土土器類(3)                         | 第55図 I 区遺構外出土土器(4)                 |
| 第24図 I 区遺構内出土土器類(4)                         | 第56図 I 区遺構外出土土器(5)                 |
| 第25図 I 区遺構内出土土器類(5)                         | 第57図 I 区遺構外出土土器(6)                 |
| 第26図 I 区遺構内出土土器類(6)                         | 第58図 I 区遺構外出土土器(7)                 |
| 第27図 I 区遺構内出土土器類(7)                         | 第59図 I 区遺構外出土土器(8)                 |
| 第28図 I 区遺構内出土土器類(8)                         | 第60図 I 区遺構外出土土器(9)                 |
| 第29図 I 区遺構内出土土器類(9)                         | 第61図 I 区遺構外出土土器(10)                |
| 第30図 I 区遺構内出土土器類(10)                        | 第62図 I 区遺構外出土土器(11)                |
| 第31図 I 区遺構内出土土器類(11)                        | 第63図 I 区遺構外出土土器(12)                |
| 第32図 I 区遺構内出土土器類(12)                        | 第64図 I 区遺構外出土土器類(13)               |
|   | 第65図 I 区遺構外出土土器類(14)               |
|   | 第66図 I 区遺構外出土土器類(15)               |

第67図	I 区遺構外出土土器(16)	第I04図	I 区遺構外出土土製品(15)
第68図	I 区遺構外出土土器(17)	第I05図	I 区遺構外出土土製品(16)
第69図	I 区遺構外出土土器(18)	第I06図	I 区遺構外出土土製品(17)
第70図	I 区遺構外出土土器(19)	第I07図	I 区遺構外出土土製品(18)
第71図	I 区遺構外出土土器(20)	第I08図	I 区遺構外出土石器類(1)
第72図	I 区遺構外出土土器(21)	第I09図	I 区遺構外出土石器類(2)
第73図	I 区遺構外出土土器(22)	第I10図	I 区遺構外出土石器類(3)
第74図	I 区遺構外出土土器(23)	第I11図	I 区遺構外出土石器類(4)
第75図	I 区遺構外出土土器(24)	第I12図	I 区遺構外出土石器類(5)
第76図	I 区遺構外出土土器(25)	第I13図	I 区遺構外出土石製品(1)
第77図	I 区遺構外出土土器(26)	第I14図	I 区遺構外出土石製品(2)
第78図	I 区遺構外出土土器(27)	第I15図	I 区遺構外出土石製品(3)
第79図	I 区遺構外出土土器(28)	第I16図	I 区遺構外出土石製品(4)
第80図	I 区遺構外出土土器(29)	第I17図	I 区遺構外出土石製品(5)
第81図	I 区遺構外出土土器(30)	第I18図	I 区遺構外出土石製品(6)
第82図	I 区遺構外出土土器(31)	第I19図	I 区遺構外出土石製品(7)
第83図	I 区遺構外出土土器(32)	第I20図	I 区遺構外出土石製品(8)
第84図	I 区遺構外出土土器(33)	第I21図	I 区遺構外出土石製品(9)
第85図	I 区遺構外出土土器(34)	第I22図	I 区遺構外出土石製品(10)
第86図	I 区遺構外出土土器(35)	第I23図	I 区遺構外出土石製品(11)
第87図	I 区遺構外出土土器(36)	第I24図	I 区遺構外出土石製品(12)
第88図	I 区遺構外出土土器(37)	第I25図	I 区遺構外出土石製品(13)
第89図	I 区遺構外出土土器(38)	第I26図	I 区遺構外出土石製品(14)
第90図	I 区遺構外出土土製品(1)	第I27図	I 区遺構外出土石製品(15)
第91図	I 区遺構外出土土製品(2)	第I28図	I 区遺構外出土石製品(16)
第92図	I 区遺構外出土土製品(3)	第I29図	II 区地形図・基本土層
第93図	I 区遺構外出土土製品(4)	第I30図	III 区遺構配置図・基本土層図
第94図	I 区遺構外出土土製品(5)	第I31図	III 区検出遺構(1) - 土坑(S K)・配石遺構(S Q) ·性格不明遺構(S X)
第95図	I 区遺構外出土土製品(6)	第I32図	III 区検出遺構(2) - 挖立柱建物跡(S B)
第96図	I 区遺構外出土土製品(7)	第I33図	III 区検出遺構(3) - 柱穴様ビット(S K P)
第97図	I 区遺構外出土土製品(8)	第I34図	III 区検出遺構(4) - 性格不明遺構(S X) ·柱穴様ビット(S K P)
第98図	I 区遺構外出土土製品(9)	第I35図	III 区検出遺構(5) - 柱穴様ビット(S K)
第99図	I 区遺構外出土土製品(10)	第I35図	III 区検出遺構(5) - 柱穴様ビット(S K P)
第100図	I 区遺構外出土土製品(11)	第I36図	III 区検出遺構(6) - 柱穴様ビット(S K P)
第101図	I 区遺構外出土土製品(12)		
第102図	I 区遺構外出土土製品(13)		
第103図	I 区遺構外出土土製品(14)		

- |       |                                      |       |                          |
|-------|--------------------------------------|-------|--------------------------|
| 第137図 | III区遺構内出土土器類(1)・V区遺構<br>内出土土器類(1)    | 第143図 | V区検出遺構(3)－柱穴様ピット(SKP)    |
| 第138図 | IV区地形図・検出遺構(1)<br>－柱穴様ピット(SKP)       | 第144図 | V区柱穴様ピット(SKP)配置図         |
| 第139図 | IV区基本土層図                             | 第145図 | 赤色顔料の蛍光X線スペクトル図(番号1～6)   |
| 第140図 | V区遺構配置図・基本土層図                        | 第146図 | 赤色顔料の蛍光X線スペクトル図(番号7～12)  |
| 第141図 | V区検出遺構(1)－土坑(SK)                     | 第147図 | 赤色顔料の蛍光X線スペクトル図(番号13～16) |
| 第142図 | V区検出遺構(2)－土器埋設遺構(SR)<br>・柱穴様ピット(SKP) | 第148図 | 黒曜石原産地                   |

## 表目次

- |      |                            |      |                               |
|------|----------------------------|------|-------------------------------|
| 第1表  | ヲフキ遺跡周辺の遺跡一覧               | 第11表 | ヲフキ遺跡I区出土地点別魚類部位観察表           |
| 第2表  | 柱穴様ピット観察表(1)－I区            | 第12表 | ヲフキ遺跡I区出土地点鳥類・哺乳類部位観察表        |
| 第3表  | 柱穴様ピット観察表(2)－I区            | 第13表 | 各黒曜石の原産地における原石群の元素比の平均値と標準偏差値 |
| 第4表  | 柱穴様ピット観察表(3)－I区            | 第14表 | ヲフキ遺跡出土黒曜石製遺物の元素比分析結果         |
| 第5表  | 柱穴様ピット観察表(4)－I区            | 第15表 | ヲフキ遺跡出土の黒曜石製遺物の原産地分析結果        |
| 第6表  | 柱穴様ピット観察表(5)－III・IV区       |      |                               |
| 第7表  | 柱穴様ピット観察表(6)－V区            |      |                               |
| 第8表  | 柱穴様ピット観察表(7)－V区            |      |                               |
| 第9表  | 放射性炭素年代測定および暦年代較正の結果       |      |                               |
| 第10表 | ヲフキ遺跡 赤色顔料分析試料一覧<br>及び分析結果 |      |                               |

## 図版目次

図版1 遺跡遠景、I区調査状況・石の検出状況	図版11 I区 遺構外遺物出土状況(2)
図版2 I区 石の検出状況、土坑(1)－SK04 ·14	図版12 I区 遺構外遺物出土状況(3)、 III区全景
図版3 I区 土坑(2)－SK19·39·41·42	図版13 III区 配石遺構－SQ3002、 性格不明遺構－SX3003、 柱穴様ピット－SKP3000·3039
図版4 I区 土坑(3)－SK43·54·55·56·60 ·75·85	
図版5 I区 土坑(4)－SK89·91·96·102、柱 穴様ピット－SKP97	図版14 V区 土坑－SK5002·5010·5012、土 器埋設遺構－SR5005、柱穴様ピット－ SKP5068·5031
図版6 I区 土坑(5)－SK111·125·126、土 器埋設遺構(1)－SR01·02·11	図版15 出土遺物(1)
図版7 I区 土器埋設遺構(2)－SR15·16·18 ·21·28	図版16 出土遺物(2)
図版8 I区 土器埋設遺構(3)－SR30·67·103	図版17 出土遺物(3)
図版9 I区 土器埋設遺構(4)－SR112、屋外 炉－SQN26·90、配石遺構(1)－SQ03 ·07·09·12	図版18 出土遺物(4)
図版10 I区 配石遺構(2)－SQ13·27·86、性 格不明遺構－SX57、遺構外遺物出土状 況(1)	図版19 出土遺物(5)
	図版20 ノフキ遺跡出土動物遺体(1)
	図版21 ノフキ遺跡出土動物遺体(2)
	図版22 ノフキ遺跡出土鹿角加工品

# 第1章 はじめに

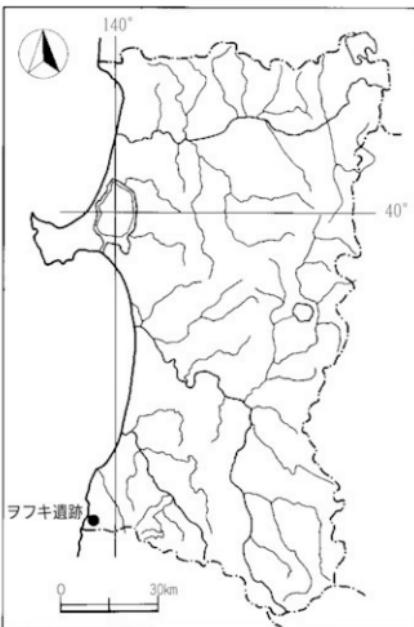
## 第1節 調査に至る経過

象潟町ヲフキ遺跡は、推定面積30,000m<sup>2</sup>を越える周知の遺跡で、その一部が大砂川地区農免農道整備事業に伴い平成元年度に事前調査されている。このヲフキ遺跡が所在する象潟町大砂川地区を対象として、秋田県農政部は県営ほ場整備事業を計画し、これを受けて地元大砂川地区が平成7年9月にはほ場整備事業実施を決定し、事業計画が具体化した。その後、平成8年10月の県農政部と当時の県教育文化課との協議において、農政部側から象潟町大砂川地区内で県営ほ場整備事業が計画されていることが示された。この協議後、文化課は、同年12月2日に当該地区内の遺跡分布調査を実施し、ヲフキ遺跡を含めた周知の遺跡2箇所が事業に係わることを報告した。

平成10年4月には当該ほ場整備事業が、事業期間平成10年度～14年度、総事業費535,000千円、区面積29.5haの基本計画で採択された。その後、平成10年11月4日付で県由利農林事務所長から象潟町教育委員会教育長宛に事業地内の埋蔵文化財範囲確認調査の依頼があり、同年11月5日付で象潟町教育委員会教育長から県教育文化課長宛に当該範囲確認調査についての協力依頼があった。これを受け、秋田県埋蔵文化財センターが、同年11月13日から12月18日まで195,000m<sup>2</sup>を対象に遺跡確認調査を実施した。その結果、当該範囲内において、ヲフキ遺跡は縄文時代前期～晩期の集落跡、古代の集落跡、近世の遺物散布地の複合遺跡であり、合計27,500m<sup>2</sup>が対象地内の4地区に存在することが確認された。

これをもとに、県文化課と当時の由利農林事務所とが、ほ場整備工事工法が遺跡におよぼす影響等について協議した結果、平成11年1月に、工事によって削平される確認調査対象地の東北側(当該確認調査時のB地区)2箇所、計8,900m<sup>2</sup>について発掘調査を実施することに決定した。さらに平成12年、確認調査対象地の南西側5箇所、計6,000m<sup>2</sup>について発掘調査を実施することを決定した。発掘調査は平成12年度に秋田県埋蔵文化財センターが行うこととなった。

なお、例言で述べたように、本報告書では先の平成元年度調査をヲフキ遺跡第1次調査と呼称し、平成11年度から継続する県営ほ場



第1図 ヲフキ遺跡の位置

整備事業に伴う平成11年度の発掘調査を第2次調査、今次調査を第3次調査とする。<sup>(注4)</sup>

## 第2節 調査要項

遺跡名	ヲフキ遺跡(略記号：6WHK-2)
所在地	秋田県由利郡象潟町大砂川字ヲフキ20外
調査目的	県営ほ場整備事業(大砂川地区)に係る埋蔵文化財発掘調査
調査期間	平成12年5月15日～9月14日
調査対象面積	6,000m <sup>2</sup>
調査面積	6,000m <sup>2</sup>
調査主体者	秋田県教育委員会
調査担当者	柴田陽一郎(秋田県埋蔵文化財センター調査課長補佐) 小林芳行(秋田県埋蔵文化財センター調査第1科学芸主事) 黒澤幸子(秋田県埋蔵文化財センター調査第1科非常勤職員) 亀井崇晃(秋田県埋蔵文化財センター調査第1科非常勤職員)
秘務担当	佐藤 惟(秋田県埋蔵文化財センター総務課長) 佐々木敬隆(秋田県埋蔵文化財センター総務課主事) 八文字 隆(秋田県埋蔵文化財センター総務課主事) (担当者・職名は、調査時のものである)
調査協力機関	秋田県由利総合農林事務所 象潟町 象潟町教育委員会 象潟町土地改良区

註1 秋田県教育委員会 「大砂川地区農免農道整備事業に係る埋蔵文化財発掘調査報告書Ⅰ-ヲフキ遺跡-」

秋田県文化財調査報告書第199集 1990(平成2)年

註2 秋田県教育委員会 「遺跡詳細分布調査報告書」 秋田県文化財調査報告書第270集 1997(平成9)年

註3 秋田県教育委員会 「遺跡詳細分布調査報告書」 秋田県文化財調査報告書第291集 1999(平成11)年

註4 秋田県埋蔵文化財センター 「ヲフキ遺跡調査資料」 2001(平成13)年

## 第2章 遺跡の環境

### 第1節 遺跡の立地と地理的環境

ヲフキ遺跡の今回の調査地区は、由利郡象潟町大砂川字ヲフキ20外に所在する。JR羽越本線上浜駅から南東約600mに位置し、経緯度は、東経 $139^{\circ} 54' 24''$ 、北緯 $39^{\circ} 9' 18''$ である。

本遺跡は、日本海汀線から東へ約1km内陸寄りの鳥海山北西山麓裾部の丘陵緩斜面上に立地する。周辺地形は、大きくは南北方向に向かって下降し、標高は23~51m前後と全体では大きな標高差がある。遺跡の南側には川袋川が西流し、さらに遺跡中央には西に向かって開口する小谷がある。小谷からは、現在も鳥海山の伏流水が大量に湧出している。後述するように、ヲフキ遺跡は各時代にわたって断続的に営まれており、その要因の一つとしてこの小谷の豊富な湧水の存在を考慮すべきかもしれない。

ヲフキ遺跡は推定面積30,000m<sup>2</sup>を超える縄文時代の周知の遺跡であり、平成元年には遺跡を南北に縦断する農免農道工事に先立ち第1次発掘調査が行われ、縄文時代前期の遺構・遺物と古代の遺物などが検出された。<sup>(註1)</sup> 平成11年度の第2次調査では、縄文時代中期の竪穴住居跡や縄文時代後期から弥生時代にかけての掘立柱建物跡などが検出された。<sup>(註2)</sup> そして今次調査では、平成元年度調査地区的南隣5箇所6,000m<sup>2</sup>を対象とし、主として縄文時代後期中葉および後期後葉の遺構・遺物が若干地点を異にして検出されている。<sup>(註3)</sup>

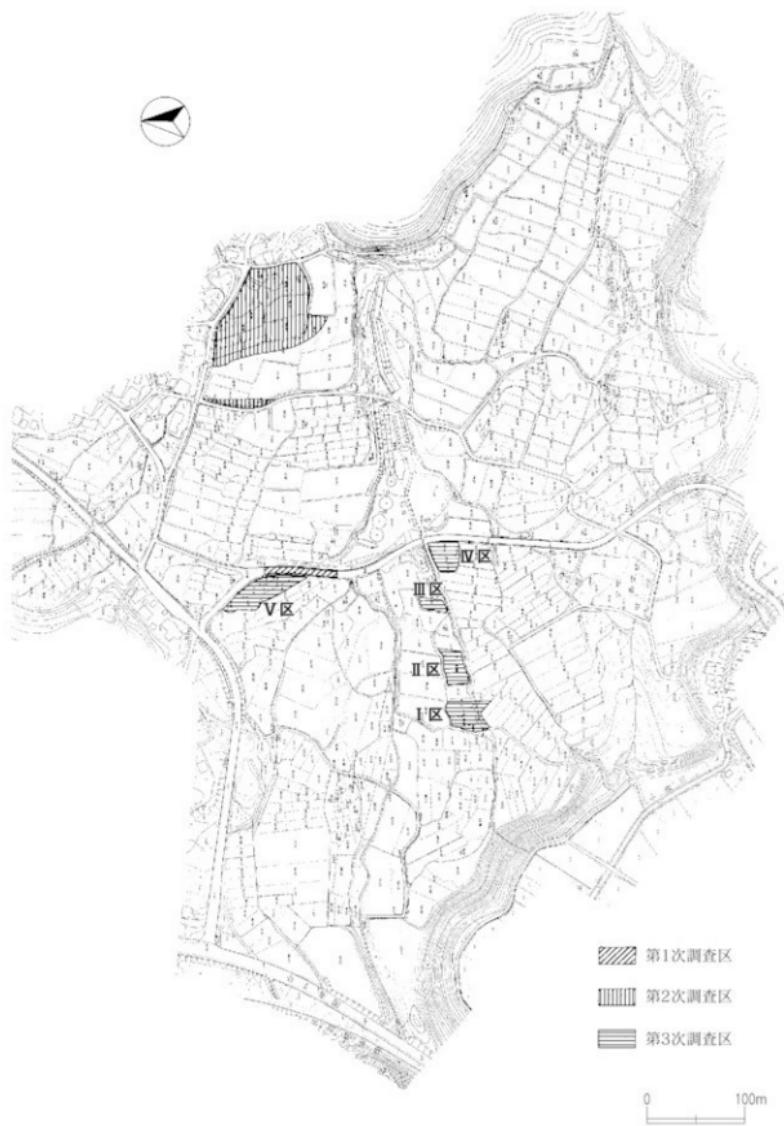
今回の第3次調査の調査地点は、標高32m前後の第1次調査地点に隣接し、その標高は27~31mである。調査地点は5地区(I区・II区・III区・IV区・V区)に分かれ、現況は、棚田状の水田であった。本来、西に向かって下降する緩斜面が、近年の水田造成時に全体が大きく削平され、地形改変されたものである。相対的に中位部となるIII区とIV区では、水田造成時に厚く盛土されており、縄文時代中期の遺物包含層が存在するなど旧地形が一部遺存していた。

ヲフキ遺跡の周辺地形は、象潟町中央部を西流して日本海に注ぐ奈曾川を境として大きく南北で特徴を異にする。奈曾川以北では、象潟泥流や小滝泥流からなる泥流堆積物丘陵が北~北北西方向に発達している。このうち、象潟泥流は東鳥海火口噴火に伴って約2,600年前に発生したと推定されている。<sup>(註4)</sup>

一方、ヲフキ遺跡が位置する奈曾川以南では、鳥海山の第四紀以降の噴火によって形成された典型的な円錐状火山地形が主体となる。日本海沿岸沿いには新旧の砂丘が発達する。しかし、南端部の小砂川海岸は小砂川溶岩からなる岩石海岸となっている。また、その北東側の大砂川地区周辺では、川袋小川・元滝川下流域および奈曾川下流左岸にかけて扇状地が形成されている。なお、奈曾川以南では、上記の奈曾川・川袋小川・元滝川のほか、川袋川なども存在するが、現状では顯著な河岸段丘の発達を認められない。

### 第2節 歴史的環境

ヲフキ遺跡周辺の遺跡分布を概観すると、現在のところ、ヲフキ遺跡周辺に限らず象潟町内では旧



第2図 調査区の位置

石器時代の遺跡は未確認である。これは、上述した象潟泥流堆積物が奈曾川以北を厚く覆っていることなどから、現状で段丘地形がほとんど発達していないことと関連する可能性がある。象潟泥流の厚さは平均で50m前後と推定されているが、地点によってその層厚には変異があり、今後、泥流下から当該時代の遺跡が確認されるかも知れない。

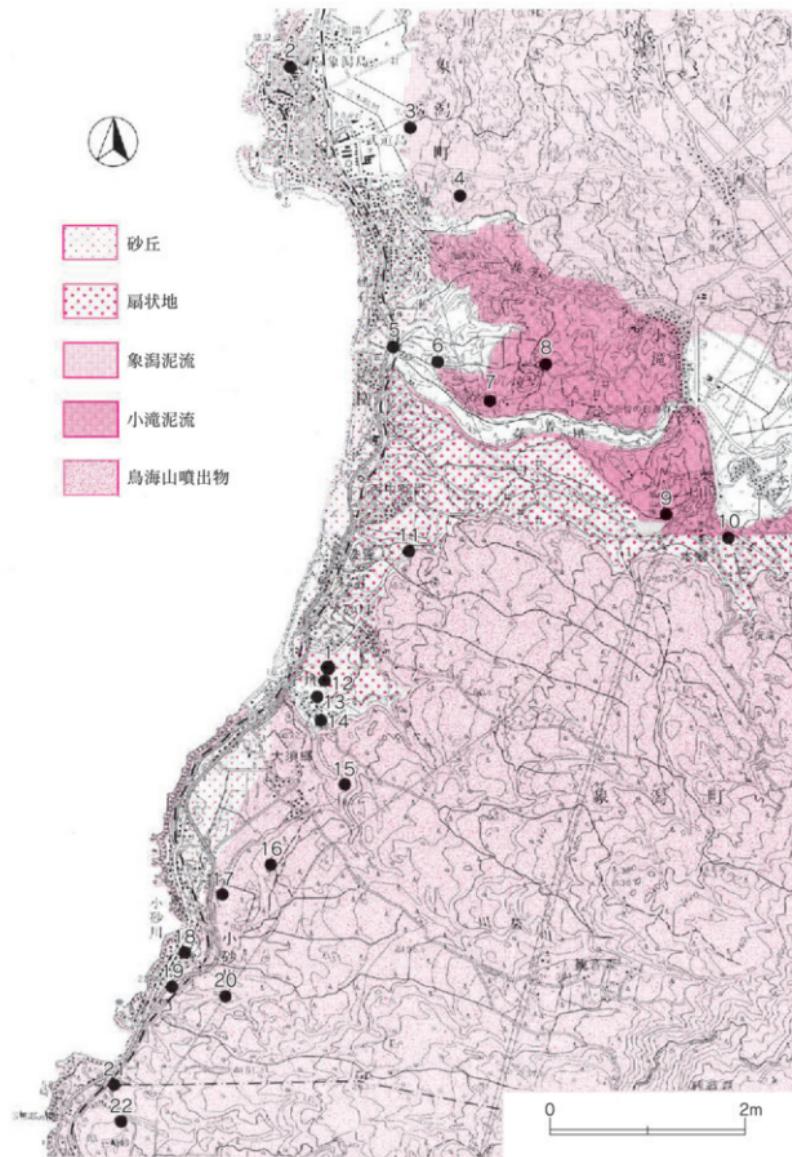
縄文時代の遺跡分布も、象潟泥流堆積の影響を受けて、現状で奈曾川を境に北と南では大きな違いがある。奈曾川以北では、象潟泥流が厚く堆積するため、縄文時代晚期以前の遺跡確認例はほとんどない。ただし、平成11年度の御嶽公園館跡(第3図4)発掘調査では、泥流下2m前後で縄文時代前期に属する可能性のある土坑6基<sup>(註5)</sup>が検出されている。旧石器時代の遺跡同様、今後さらに当該地域でも縄文時代晚期以前の遺跡が確認される可能性がある。

一方、奈曾川以南地域では、川袋川沿いの台地上や鳥海山山麓丘陵部などに縄文時代の遺跡が分布している。このうち、川袋川右岸台地上に立地する遺跡に、本遺跡の南1.2kmに位置する上熊ノ沢遺跡<sup>(註6)</sup>(第3図15)がある。上熊ノ沢遺跡では平成元年の発掘調査によって、縄文時代中期後葉～後期初頭の竪穴住居跡10数軒や同早期～晚期の遺物が多数確認されている。調査範囲が狭小であったため、必ずしも明瞭ではないが、遺跡は縄文時代早期以降、断続的に利用され、中でも縄文時代中期後葉前後には一定規模の集落が成立していたものと判断できる。

また、鳥海山の山麓裾部丘陵上に立地する遺跡の中では、本遺跡(第3図1)の3次にわたる発掘調査の結果、縄文時代前期の土坑・同中期の竪穴住居跡、同後晚期前後に属する可能性が高い<sup>(註7)</sup>掘立柱建物跡・柱穴群や土坑、前期～晚期の遺物などが各時期に、若干地点を異にしながら分布することが判明した。

番号	遺跡名	所在地	時代	種別	備考
1	ヲフキ	象潟町大砂川字ヲフキ	縄文・古代・中世・近世	集落跡	
2	塙越城	象潟町二の丸	中世	館跡	
3	水越	象潟町水越	弥生	遺物包含地	壺破片出土
4	御嶽公園館跡	象潟町横山	縄文・中世・近世	館跡	
5	下位椎現森	象潟町閔字下りの下	縄文	遺物包含地	
6	閔新館(新館)	象潟町閔字赤坂	縄文・中世	館跡	
7	閔古館(古館)	象潟町閔字建森	縄文・中世	館跡	
8	ヨシワ沢	象潟町閔字ヨシワ沢	縄文	遺物包含地	
9	栗山池	象潟町閔字栗山	縄文	遺物包含地	
10	萩坂	象潟町本郷字後川	縄文	遺物包含地	
11	神田	象潟町洗釜字神田	縄文	遺物包含地	
12	音先(音ヶ崎)	象潟町大砂川ヲフキ?	古墳	古墳?	金環出土
13	川崎	象潟町川袋字川崎	縄文	遺物包含地	
14	滝の下	象潟町川袋字滝の下	縄文	遺物包含地	
15	上熊ノ沢	象潟町大須郷字上熊ノ沢	縄文・弥生	集落跡	縄文竪穴住居跡15軒・弥生竪穴住居跡1軒
16	藤池	象潟町大須郷字藤池	縄文	遺物包含地	
17	下向坂	象潟町小砂川字下向坂	縄文	遺物包含地	
18	中磯	象潟町小砂川字中磯・清水場	縄文	遺物包含地	
19	カウヤ	象潟町小砂川字カウヤ	縄文・古代・近世	生産遺跡	古代竪穴住居跡1軒・古代製塙遺構1基
20	水上	象潟町小砂川字砂畠	縄文	遺物包含地	
21	三崎	象潟町小砂川字三崎	縄文	遺物包含地	
22	三崎山	山形県鶴岡市佐野町女鹿字三崎山	縄文	遺物包含地	青銅刀子出土

第1表 ヲフキ遺跡周辺の遺跡一覧



第3図 ツフキ遺跡周辺の遺跡分布

このような状況から推定すると、遅くとも縄文時代前期後葉以降には、丘陵緩斜面や河川沿い台地上に一定規模の集落が出現していたと推定できる。なお、秋田・山形県境から約500m南側の鳥海山山麓丘陵部上に立地する山形県遊佐町三崎山遺跡では、4地点にわたって縄文時代中期後葉から晩期前葉にかけての遺物が確認されている。さらに、この4地点のうちの三崎山遺跡A地区周辺からは青銅製刀子<sup>(註8)</sup>が採集されており、縄文時代における大陸からの渡来文物の一例として注目されている。当該遺物が三崎山遺跡(第3図22)で縄文時代後期～晩期の遺物と共に伴したものであるとすれば、當時大陸と何らかの関係をもっていたと推定される。

弥生時代の遺跡として、上熊ノ沢遺跡やヲフキ遺跡がある。上熊ノ沢遺跡では弥生時代前期の堅穴住居跡1軒が確認されている。また、ヲフキ遺跡では、第2次調査によって当該期の掘立柱建物跡もしくは堅穴住居跡の柱穴が検出されている。現状では、確認例が乏しいこともあって即断できないが、弥生時代の遺跡立地は、基本的に縄文時代と共に通すようである。さらに、このほか、水越遺跡(第3図3)<sup>(註9)</sup>は奈曾川以北の泥流丘陵上に位置しており、弥生時代以降には、奈曾川以北の地域も再び活動の対象地域となったものと判断できる。ただし、集落の具体的な特徴や稲作の存否を含めた生業形態などは不明である。

古墳時代の遺跡として、大砂川地区に菅ヶ崎古墳(第3図12)が存在したとされている。金環・管玉が出土したとされるが、金環のみ現存する。古墳の位置や性格等は不明である。

古代の遺跡には、ヲフキ遺跡のほか、日本海沿いの砂丘上に立地するカウヤ遺跡(第3図19)がある。カウヤ遺跡では、2度の調査によって製塙炉や製塙土器が検出され、奈良時代から平安時代にかけて土器製塙が行われていたことが明らかとなっている。なお、「延喜式」には、「蚶形(きさかた)」駅家の記述があり、秋田城跡からは、蚶形駅家から送付した製塙用鉄釜検収に係わる漆紙文書が出土していることなどから、カウヤ遺跡が製塙を通じて秋田城と直接係わっていた可能性も想定されている。

一方、ヲフキ遺跡では、主に平成元年の第1次調査時に平安時代の土師器・須恵器が出土している。現時点では確実な遺構は乏しいが、遺跡周辺には当時の集落が存在した可能性が強いと推定できる。

このように、古代には製塙集団や駅家が存在したことが想定でき、その支持基盤として、周辺地域の開発の進展やそれと対応した集落の発達などを想定することができる。

中世の遺跡には、ヲフキ遺跡のほか、平成11年度に部分的に発掘調査した御嶽公園館跡や関古館(古館)(第3図7)、塩越城(第3図2)、関新館(新館)(第3図6)などの城館跡がある。ヲフキ遺跡では第2次調査において、中世後半から近世前半に属する可能性がある掘立柱建物からなる小規模な集落跡を検出している。これに対して、城館跡は御嶽公園館跡を含め、詳細が不明である。

文献史料からは、中近世の領地支配の主要な変遷は以下のようになる。平安時代末から鎌倉時代かけては、由利氏が由利郡の地頭であったとされる。1085(応徳2)年には由利維安が仁賀保町院内に山根館を築き、郡内に関古館を含めて8箇所に陣代、4箇所に要塞を築いたとされる。その後、鳥海氏・進藤氏・渡辺氏などが跡を継ぎ、室町時代前半には関東管領から派遣された由利十二頭が当地を治めた。また、14世紀中頃の正平年間には、信濃小笠原氏の一族池田豊後守茂政が塩越城を築城し、象潟地方を支配したとされる。戦国時代には象潟は仁賀保氏の勢力下に入ったが、関ヶ原の戦い後には、由利郡が最上氏の支配下に入り、由利十二頭時代は終了している。その後、本田氏・仁賀保氏・生駒氏などによる支配を経て、1640(寛永17)年に、象潟は本荘藩六郷氏の領地となった塩越地区、生駒氏

領となった上郷の横岡地区、幕府領の上浜地区の分割支配となり、1831(天保2)年、幕府による領地入れ替えで、上浜地区の小砂川村と大砂川村の一部が幕府領として残るほかは、生駒氏領となる。する。

今後、新たな発掘調査資料もあわせて文献資料と発掘調査資料の両面から、中世から近世にかけての個別集落の実態と領地支配の在り方などを総合的に検討してゆくことも必要であろう。<sup>(註1)</sup>

註1 秋田県教育委員会 「秋田県遺跡地図(中央版)」 1990(平成2)年

註2 秋田県教育委員会 「大砂川地区農免農道整備事業に係る埋蔵文化財発掘調査報告書Ⅰ-ヲフキ遺跡-」

秋田県文化財調査報告書第199集 1990(平成2)年

註3 秋田県埋蔵文化財センター 「ヲフキ遺跡発掘調査資料」 2001(平成13)年

註4 加藤万太郎 「秋田県の第4紀層の<sup>14</sup>C年代と象潟泥流について」 『秋田県立博物館研究報告』第3号 1978(昭和53)年 秋田県立博物館

註5 秋田県教育委員会 「御嶽公園館跡-緊急地方道路整備事業象潟矢島線に係る埋蔵文化財発掘調査報告書-」 秋田県文化財調査報告書第311集 2001(平成13)年

註6 上熊ノ沢遺跡は、川袋川の狭小な河岸段丘上に立地する可能性も想定し得る。しかし、報告書の記載からは断定し難いことから、ここでは報告書に従い、単に「台地」としておく。

秋田県教育委員会 「大砂川地区農免農道整備事業に係る埋蔵文化財発掘調査報告書Ⅱ-上熊ノ沢遺跡-」 秋田県文化財調査報告書第213集 1991(平成3)年

註7 以下、ヲフキ遺跡に関する記述は、本書および註2・3文献に基づく。

註8 佐藤楨宏 「山形県庄内出土の有孔石斧と青銅刀」 『考古学ジャーナル』454 2000(平成12)年

註9 象潟町 「象潟町史 資料編Ⅰ」 1998(平成10)年

註10 註9文献

註11 秋田県教育委員会 「カウヤ遺跡発掘調査報告書」 秋田県文化財調査報告書第123集 1985(昭和60)年

秋田県教育委員会 「カウヤ遺跡第2次発掘調査報告書-一般国道7号小砂川局改計画路線に伴う埋蔵文化財発掘調査-」 秋田県文化財調査報告書第135集 1986(昭和61)年

註12 註5文献

註13 註5文献

註14 秋田県教育委員会 「秋田県の中世城館」 秋田県文化財調査報告書第86集 1981(昭和56)年

註15 仁賀保町 「仁賀保町史」 1972(昭和47)年

註9文献

註16 第1表の作成と本節執筆には、註9文献を参考にした。また、第3回作成には、下記文献も参考にした。

大沢 穣ほか 「象潟地域の地質(酒田地域の一部、飛島を含む)」 地域地質研究報告 1982(昭和57)年 地質調査所

中野 俊ほか 「鳥海山及び吹浦地域の地質」 地域地質研究報告 1992(平成4)年 地質調査所

## 第3章 調査の概要

### 第1節 遺跡の概観

ヲフキ遺跡は、平成元年度の第1次調査、平成11年度の第2次調査および今回報告する平成12年度の第3次調査が実施されている。これら3次にわたる発掘調査結果および遺跡確認調査結果を総合すると、遺跡は、鳥海山北西麓裾部丘陵の緩斜面上に30,000m<sup>2</sup>以上に広がっているものと推定できる。ただし、現状の調査結果からは、特定の時期の遺構が広範に分布するのではなく、縄文時代から近世にかけての遺構が一部重複しながらも、大きくは地点を異にしながら断続的に存在したものと判断できる。

現時点では、遺跡の形成は第1次調査区を中心に縄文時代前期後葉に始まると想定できる。当該時期に属する可能性のある遺構には、土坑17基、土器埋設遺構4基などがある。このほか、性格不明の遺構SX01は方形平面の竪穴住居跡であった可能性もある。また、第2次調査では縄文時代前期末葉の土坑墓1基を確認している。

これらのことから、当該時期には、一定規模の集落が出現していたものと推定できる。しかし、第1次調査区と第2次調査区とは200m以上離れており、遺跡の具体的な広がりやその実態については判然としない。縄文時代中期前葉から中葉にかけては、前回の第2次調査区を中心に遺構・遺物が検出されている。出土遺物を見ると、西区を中心とした西側低位部には縄文時代中期前葉～中葉（大木7b～8a式）のものを主体とし、東区側は中期中葉（大木8a～8b式）を主体としているようである。さらに、東区南西側では、相対的に出土遺物が少ないため、不明な部分も大きいが、縄文時代後期～晩期および弥生時代の柱穴を中心とした遺構群が分布する。縄文時代後期後葉から末葉にかけての遺構・遺物は平成12年度の調査区（I区）でまとめて検出しており、当該時期の遺跡の中心はより低位の西側にあったようである。

古代の遺物は前回の調査区でも僅かながら出土している。第1次調査区では、当該時期の土師器・須恵器が出土しているほか、時期を特定し難いものの、柱穴が多数検出されていることから、第1次調査区周辺には、古代の掘立柱建物を伴う集落が存在していた可能性がある。今回の調査区（I区・II区・IV区・V区）でも、遺構外から、須恵器が僅かに出土している。さらに、中世から近世にかけては、第2次調査区において、当該時期に属すると推定できる掘立柱建物跡がまとめて検出されていることから、この調査区周辺に少なくとも数棟前後の掘立柱建物からなる集落が成立していたものと判断できる。現時点では、ヲフキ遺跡の緩斜面上に、断続的に中小規模の集落が形成されていた状況が想定できる。これは遺跡中央部東側の小谷から豊富な湧水のあることが集落形成の大きな要因であったと考えられる。

### 第2節 調査の方法

発掘調査はグリッド法を採用した。調査区の設定方法は、国家座標X系（X=-80160.000、Y=-

93560.000)の座標位置を原点(MA50)とし、国家座標系第X系の南北方向に南北基準線を設定した。この基準線と直交して原点の基準杭を通る線を東西基準線とする。これら東西南北の基線に沿って4m×4mのメッシュを組み、その交点に方眼(グリッド)杭を打設した。なお、調査区が、I区～V区と、5箇所の飛び地になっているので、方眼杭の設置は各調査区の範囲内とした。

そして、グリッド杭には、東から西に向かって東西方向を表すLA……LJ・MA……MJのアルファベットと、南から北に向かって昇順する南北方向を表す49・50……の数字を組み合わせた記号(例えば「MA50J」)を記入し、4m×4mの方眼杭の南東隅をグリッドの名称とした。

遺構の確認はできるだけ遺構の掘り込み面での検出に努めたが、水田造成などにより地山面まで堆積土の薄いところもあり、地山漸移層もしくは地山面での確認となる遺構もあった。

遺物は、遺構内出土のものは、出土遺構名・出土層位・遺物番号・出土年月日を記入し、遺構外出土のものは、出土グリッド・出土層位・遺物番号・出土年月日を記入したラベルを付して取り上げた。多量の遺物が出土したI区では調査後半において、出土地点を出来るだけ細かく押さえられるように、1グリッドを4分割の小区画にしてグリッド名の後に、北西側を「a」、北東側を「b」、南西側を「c」、南東側を「d」とし、「MA50—a」などと記して取り上げた。

基本的に住居跡などの大規模な遺構は十字に土層観察用のベルトを残し、4分割し、土坑などの小規模な遺構は、長軸に沿って二分割して調査した。調査の記録は、主に図面と写真によった。図面は基本的には1/20の縮尺で作図したが、遺物出土状況図は1/10の縮尺で作図した。写真撮影は、35mmのモノクロとカラーリバーサルフィルムを使用した。また、遺跡全体の俯瞰写真はラジコンヘリによる空中写真撮影によった。

柱穴以外の遺構には、プラン検出順に混乱の無いよう I区は1番から、III区は3000番から、V区は5000番から通し番号を付した。柱穴についても、各区ごとの通し番号とし、I区はSKP1番から、III区はSKP3000番から、IV区はSKP4000番から、V区はSKP5000番から番号を付した。

### 第3節 調査の経過

今回のヲフキ遺跡の発掘調査は、平成12年5月15日に開始し、同年9月14日に終了した。

調査は基本的にI区を全調査期間にわたって、II区からV区は並行してそれぞれ短期間に区切って行った。全地区とも発掘作業に入る前に秋田県由利総合農林事務所の協力によって、重機での表土除去作業が完了していたので、5月18日からI区とII区の遺物表探を開始した。

5月22日からI～III区の基本土層観察用ベルトを設定して、順次ベルト沿いに幅1mの溝を掘りながら土層断面の観察を行っていった。

5月23日 I区の遺物包含層の掘り下げに入った。

5月26日以降、II～III区と順次第2層面の表出に向けて面的な掘り下げを人力によって開始した。

5月29日には、I区から翡翠製の玉類が出土した。

5月31日からIV区に基本土層観察用ベルトを設定して、I～III区同様に調査を開始した。

6月1日、V区に基本土層観察用ベルトを設定して、I～IV区同様に調査を開始した。

6月6日、I区で第2層上面にかなり密に分布する礫群の層が広がることを確認した。さらに、同

面上で土器埋設遺構も検出された。

6月12日、V区で柱穴を確認した。

6月19日、III区で柱穴の掘り下げを開始した。I区では第2層上面で次々に密集出土する土器片の出土状況平面図の作成を継続した。

6月26日、III区の遺構精査が佳境に入った。

7月4日、III区で配石遺構2基を確認した。I区では一部第2層の中位面まで掘り下げを開始した。

7月5日、I区南側の農道部分の枠石と旧表土剥ぎを行った。2a層が良く残っており、すぐ掘り下げに入り。石が多く検出された。この頃、北東部の配石遺構の図面作成と西側の写真撮影を集中的に行う。

7月6日、I区北東部の石（配石）の図面作成を継続する。

7月7日、台風に備えて防災対策を行う。

7月11日、南側農道下の石の面を出ししながら、他に遺構精査、包含層（2b層）の掘り下げ、石の平面図作成を併行する。

7月14日、この頃になるとI区では砾群とともに一部集積された配石遺構や土器埋設遺構、土坑墓や柱穴が次々と検出されたが、依然として住居跡が検出されず、出土遺物の様相とあわせ、この地区は縄文時代後期の祭祀場である可能性が考えられた。

7月17日、I区の砾分布面の表出完了に伴って、砾分布状況の空中写真撮影が行われた。

7月18日、IV区とV区で重機による第2層面の剥ぎ取りを開始した。

7月26日、III区で精査中の方形に巡る細い溝跡が、時期は不詳であるが縄文時代の住居跡の名残である可能性が出てきた。

7月28日、I区で7基の焼土遺構を確認した。

8月3日、IV区の地山面表出を完了した結果、検出遺構は縄文時代の柱穴が3基のみということが確定した。V区の地山面表出作業が追い込みに入った。

8月8日、IV区の調査を終了した。

8月9日、III区の調査を終了した。

8月10日、II区では地山面精査を完了した結果、遺構が存在しないことが確定し、調査を終了した。

8月24日、ここまで出土した遺物を埋蔵文化財センターへ搬送した。

9月1日、V区の調査を終了した。

9月4日、調査地区がI区のみとなり、全ての調査員と作業員がI区に終結して調査終盤の追い込みに入った。I区の遺構精査が一部第2層下位面での検出遺構から第3層に順次確認面を下げ始めた。

9月6日、I区では柱穴を除く各種遺構は100基に達し、柱穴は200基を数えようとしていた。

9月11日、I区南西隅の調査を終了した。

9月12日、I区南端部の調査を終了した。

9月13日、現場撤収作業を開始した。

9月14日、I区の調査を終了した。出土遺物や発掘機材を埋蔵文化財センターへ搬送した。現場撤収作業を完了し、全調査工程を終了した。

#### 第4節 整理作業の方法と経過

遺物は土器類・石器類を合わせて、中コンテナ（容量1894L）で計1,514箱が出土した。遺物は平成12年度の調査後半（8月）に埋蔵文化財文化財センターに搬入し、洗浄作業を開始した。洗浄作業は、その年の冬も専従の作業員で継続し、注記作業も併行した。この間、平成13年12月から平成14年3月まで、（株）パレオ・ラボに放射性炭素年代測定、顔料分析、骨同定の委託をした。さらに、平成14年1月から同年3月まで、（有）遺物分析研究所に黒曜石产地同定分析の委託もした。

平成13年10月末に遺物の洗浄と注記が終了した。この間、石器類を選別して図化作業を行った。土器の復元は平成14年2月までを行い、この後、同年3月から11月まで土器の報告書掲載遺物の選別や図化・トレース作業を行った。また、同年9月から11月まで復原した土器の内40点の実測・トレース・写真撮影委託をした。実測委託しなかった土器は同年7月から9月にかけて集中的に実測・トレースを行った。

遺構については現場で取った平・断面図より、平成14年5月までに第2原図を作成し、これをトレースした。

## 第4章 調査の記録

### 第1節 基本層序

調査区のⅠ区～Ⅴ区の順に記述する。各区とも現況は水田で平坦である。

#### Ⅰ区

調査を開始するにあたり、遺物の出土状況・土層の堆積状況を確認し、基本層序を早く把握するため、東西・南北にトレンチ（試堀溝）を1本ずつ設定し、掘り下げた。結果、表土下の2層目から遺物や石が出土し、地山漸移層まで遺物包含層が確認された。遺物包含層の土質や土色は類似するものの、遺物の出方が大きく異なり、混入物や土色にはわずかに違いが見られたため、2a層、2b層、2c層と、分層して掘り下げたものである。

表土下の2a層上面では北東方向から南西方向に緩く下がる。

調査区の基本層序は中央部の東西トレンチ、西端部の南北トレンチで以下のように観察できた。

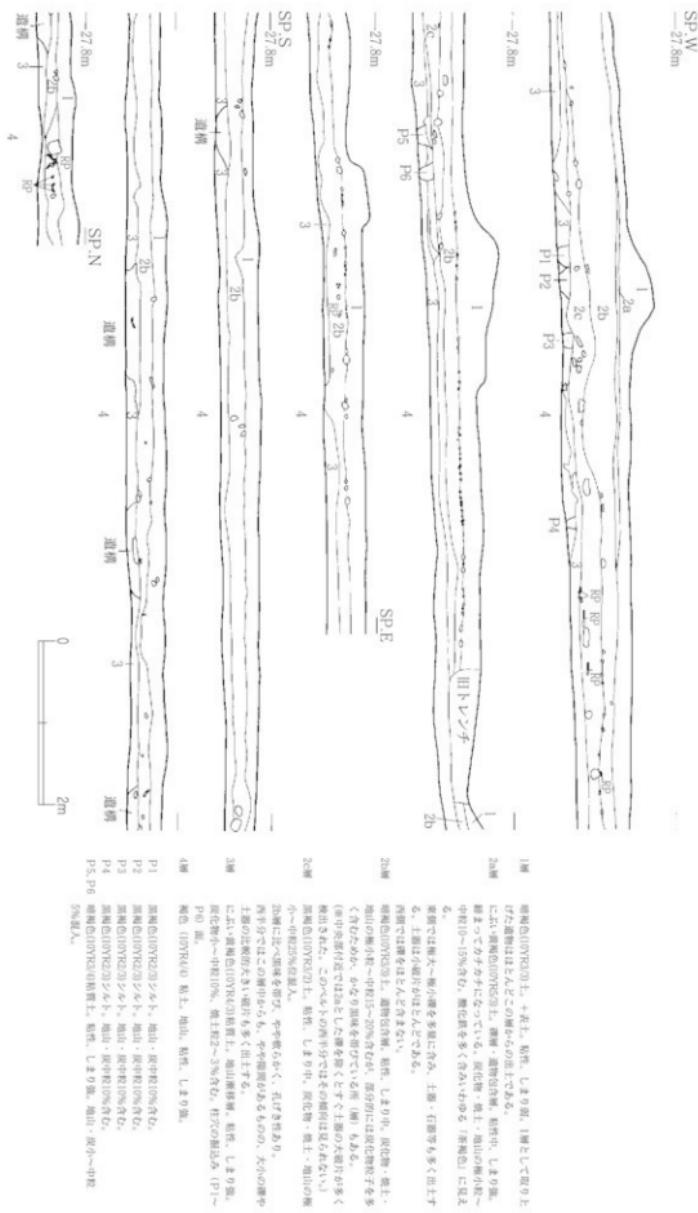
- 1層 暗褐色(10YR3/3)土。表土（耕作土）である。粘性弱、しまり弱。層厚は4～10cmである。
- 2a層 にぶい黄褐色(10YR5/3)土。一遺物包含層一。粘性中、しまり強で締まってカチカチになっている。炭化物・焼土・地山の極小粒～中粒10～15%含む。酸化鉄多く含みわゆる「茶褐色」に見える。東側では極大～極小礫を多量に含み、土器・石器等が多く出土し、土器は小破片がほとんどである。西側では礫をほとんど含まない。層厚は4～10cmである。
- 2b層 暗褐色(10YR3/3)土。一遺物包含層一。粘性中、しまり中。炭化物・焼土・地山の極小粒～中粒20%含むが、部分的には炭化物粒子を多く含むためか、かなり黒味を帯びている所（層）もある。中央部付近では2aとした礫を除くとすぐ土器の大破片が多く検出された。このベルトの西半分ではその傾向は見られない。層厚は7～54cmである。
- 2c層 黒褐色(10YR3/2)土。一遺物包含層一。粘性中、しまり中。炭化物・焼土・地山の極小～中粒25%位混入。2bに比べ黒味を帯び、やや軟らかく、孔げき性あり。西半分ではこの層中からも、やや隙間があるものの、大小の礫や土器の比較的大きい破片も多く出土する。層厚は5～32cmである。
- 3層 にぶい黄褐色(10YR4/3)粘質土。一地山漸移層一。粘性・しまり強。炭化物小～中粒10%、焼土粒2～3%含む。柱穴の掘方（P1～P6）もみられる。層厚は8～18cmである。
- 4層 褐色(10YR4/4)粘質土。一地山一。粘性。しまり強。

#### Ⅱ区

- 1層 黒褐色土(7.5YR3/2)土。表土一耕作土一。しまり強、粘性中。層厚は13～30cmである。
- 2層 にぶい黄褐色(10YR5/4)土。一盛土一。しまり・粘性強。層厚13～18cm。
- 3層 にぶい黄褐色(10YR4/3)粘質土。一地山漸移層一。粘性・しまりとも強で、炭化物少量混入する。
- 4層 褐色(10YR4/4)粘質土。一地山一。しまり強である。

#### Ⅲ区

- 1a層 黒褐色(7.5YR3/2)土。表土一耕作土一。しまり強、粘性中。酸化第二鉄が筋状に3%、炭化物 $\phi$ 7mm 1%混入する。層厚は12～70cmである。



第4図 I区基本土層図

- 1 b層 黒褐色(I0YR3/2)土。一水田造成時の搅乱層一。しまり強、粘性中。酸化第二鉄が筋状でためのものが微量(1%)に見られる。炭化物( $\phi$  1mm)1%混入する。部分的に存在する。
- 2層 にぶい褐色(7.5YR5/4)土。しまり強、粘性強。混入物はほとんどなし。層厚は13~25cmである。
- 4層 I区と同じ地山である。

#### IV区

- 1 a層 7.5YR3/2(黒褐色)。一表土(耕作土)一。しまり固く強、粘性中。酸化第二鉄が筋状に全体に広がる。層厚は14~92cmである。
- 1 b層 にぶい黄褐色土(10YR5/4)。しまり、粘性とも強(床土)。2層ブロック10%程混入し、酸化第二鉄が筋状に全体に広がる。層厚は15~22cmである。
- 2層 黒褐色土(I0YR2/2)。やや軟らかく、しまり中で、粘性弱。炭が若干見られる。層厚は20~50cmである。
- 3層 にぶい褐色(7.5YR5/4)土。一地山一。しまり固く強で、粘性強、混入物はほとんど無し。

#### V区

- 1層 10YR3/2シルト、一表土(耕作土)。層厚は20~35cmである。
- 2層 10YR3/2シルト、一遺物包含層一。わずかに粘性あり、炭化物混入多い。層厚は12~27cmである。
- 3層 地山

## 第2節 検出遺構と出土遺物

遺構の検出されたI区、III区~V区について記述する。II区から遺構は検出されなかつた。なお遺構の計測値は表にして掲載した。

### I区

表土を掘り下げた段階で大小の石(約5cm~50cm)を全体的に検出し、石を出しながら2a層を掘り下げていく段階から多くの遺物が出土した。この段階で検出した土器埋設遺構や配石遺構も有る。

遺構数は土坑(S K)62基、土器埋設遺構(S R)17基、屋外炉(S Q N)3基、配石遺構(S Q)13基、焼土遺構(S N)12基、性格不明遺構(S X)2基の計109、柱穴様ピット(S K P)213基を含めて計322基を検出した。

#### (1) 土坑(第5図~第12図)

平面形は円形もしくは楕円形で、大きさの大小があり、多くの配石を伴うものとそうでないもの、あっても極くわずかのものがある。また、平面形が円形で断面形が袋状を呈する土坑もある。

大きさが2m前後で、多数の配石を伴うものにはSK04・54・85・89がある。SK04は円形で中央部中心に配石を伴うものである。遺物は縄文土器が出土(第21図1~3)しており、1・2は口縁部片で、口縁は無文、その下は撫糸文を施している。SK54は楕円形で、埋土全体に大小の石を伴うもので、5基の土坑と重複しているが、そのなかでも大きく深い。遺物は底面から大形の石棒が横たわって出土した(第49図S38)。他に縄文土器(第26図107~116)と石器のスクレイパー(第47図S24)が出土している。土器は縄文地に平行沈線もしくは、磨消縄文で曲線的な文様を施文する縄文時代中期や後

期の土器が出土している。SK89は梢円形で、埋土上面に細長い大小の石をほびつしり並べている。SK85は平面形が梢円形で、偏平な川原石や角礫を、土坑内外側寄りに円形に並べているものである。レベル的には埋土上面と中位にあり、上面が主体である。遺物は縄文土器（第28図173～第29図181）や石器（第46図S3・4）が出土している。土器は縄文地に平行沈線文や曲線的な沈線文を施文している、縄文時代後期後半のものである。石器は石鐵2点が出土した。これらの土坑は規模・形態・出土遺物から、縄文時代の土坑墓と考えられる。

SK41～43・45・49・50・51・60・91・96・108・109は円形で、大小の礫を埋土上面（確認面）・中位・底面に配した規模の小さい土坑で、なかには断面形が柱穴様となるものもある。これらの土坑からは縄文土器・石器が出土している。土器は、縄文地に、浅く細い沈線で平行沈線や曲線的な文様を施文する、縄文時代後期のものが主体である。石器は石鐵、範状石器、スクレイバーが出土している。SK96からは石棒が出土している。

SK14・19も小さい土坑で、埋土上位（確認面）に土器の破片を置き並べているものである。土器はいずれも口縁部が大きく外反する大形の粗製深鉢形で、底部が欠損している。SK14出土土器（第22図9）は羽状縄文を施文し、SK19出土土器（第22図10）は条痕を残すもので、文様や器形から、いずれも縄文時代後期後半の土器である。

SK102・111は断面形が袋状となるもので、埋土がほぼ水平堆積で、地山ブロックなどが多く混じることから、人為的に埋められたものであることがわかつた。SK111から出土した土器（第30図223～230）は、縄文地に細い沈線で平行沈線文や弧線文を描くもの（223・227・229）や平行沈線を縦に「8」字状に区切る土器で、時期は縄文時代後期後半である。SK111からはこの他に石器（第46図S11、第47図S20、第48図S33、第49図S35・S42）が出土した。

### （2）土器埋設遺構（第13図～第15図）

土器埋設遺構は掘形が不明のものもあるが、浅い掘り込みを持つものが多く、土器は打欠かれ胴部のみであったり、胴上半部～口縁部もしくは底部～胴下半部のみであったりする。埋設の仕方は正立埋設もしくは逆位埋設、斜位埋設である。

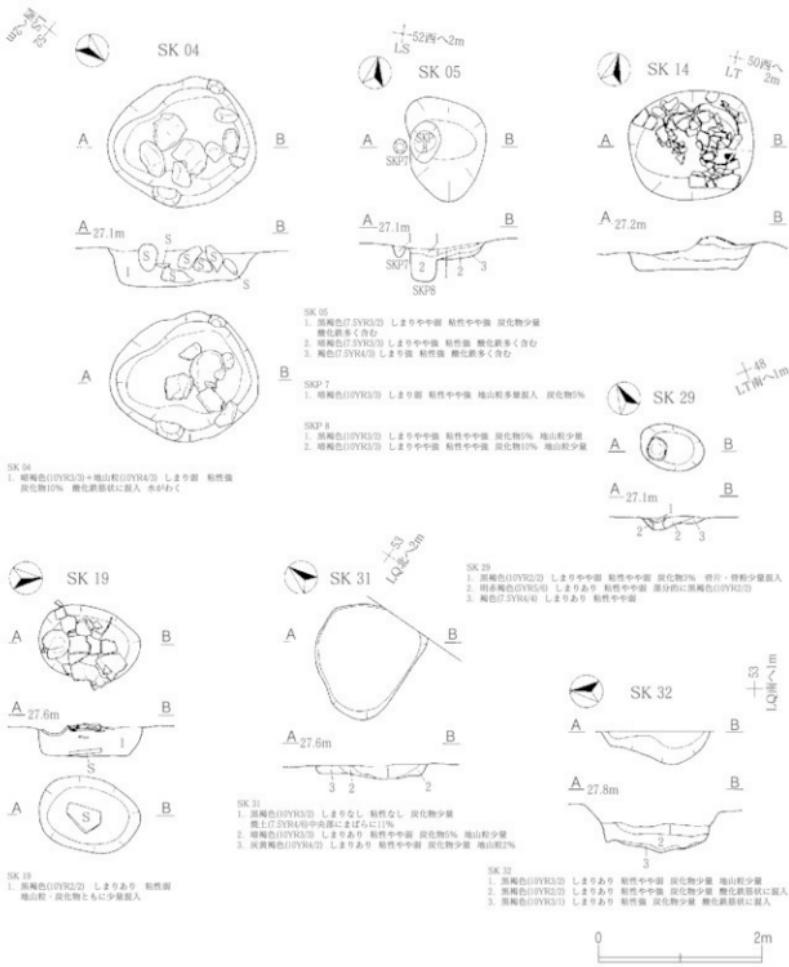
正立埋設はSR06・15・18・20・30・33・112・131で、SR18・33は掘形が柱穴様で、埋土中位か底面に石を置いている。SR30の南東隣にはベンガラの付着した割れた石皿、北西隣には縦半分に割られた深鉢形土器が同一面で検出された。逆位埋設はSR01・08・11・67で、SR01・11・67のように確認面に土器の大破片や石を置いているものもある。斜位埋設はSR103である。

埋設土器は精製・粗製の深鉢形土器が主体で、台付鉢（SR29～第33図280）もある。精製土器の文様は帶状文、帶状入組文もしくは沈線による帶状入組文風、弧線文等を施文した土器である。粗製土器は斜縄文、条線文等を施文した土器である。いずれも縄文時代後期後半である。

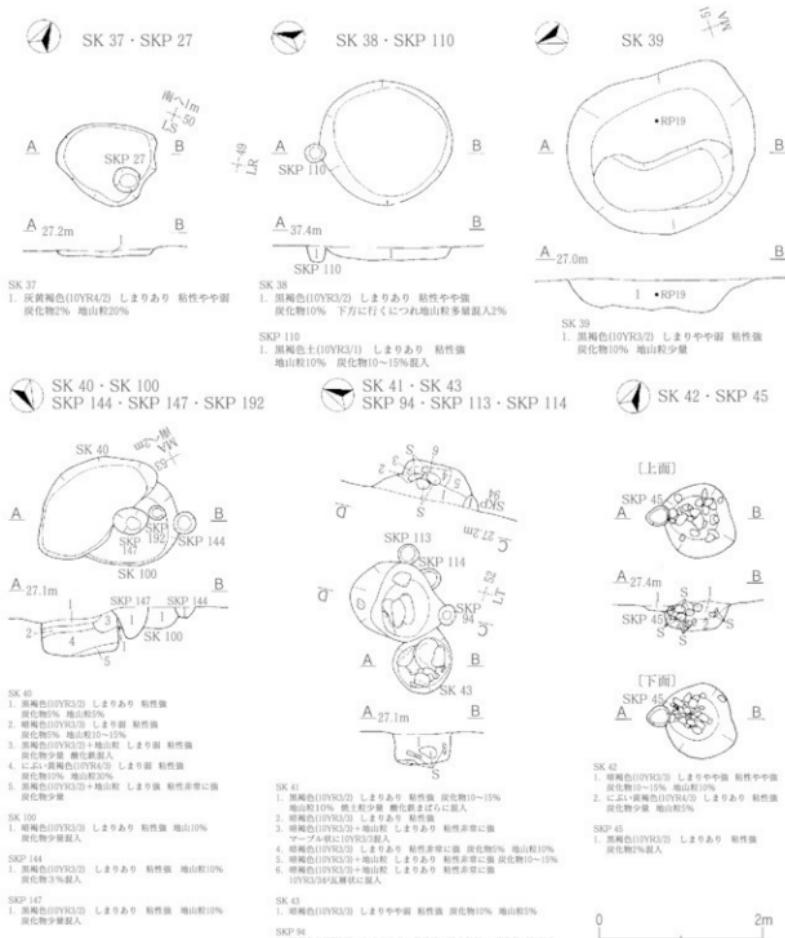
### （3）屋外炉（第15図）

屋外炉は検出時に、竪穴住居跡を想定して調査したが、周囲に柱穴や壁が確認されなかつたため屋外炉としたものである。いずれも円形の石圓炉で、なかに焼土があることから、住居の炉と同じ機能が想定される。

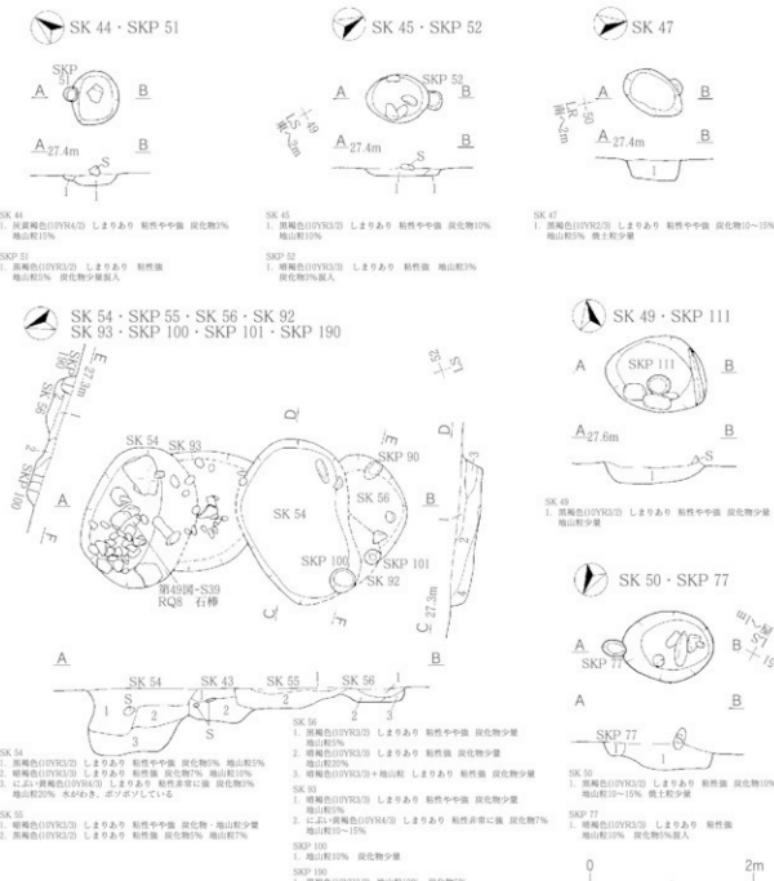
遺物は帶状文、帶状入組文もしくは刺突文を施文する縄文時代後期後半の土器（第37図304～313）が出土した。



第5図 I区検出遺構(1)一土坑(SK)



第6図 I区検出遺構(2)一土坑(SK)



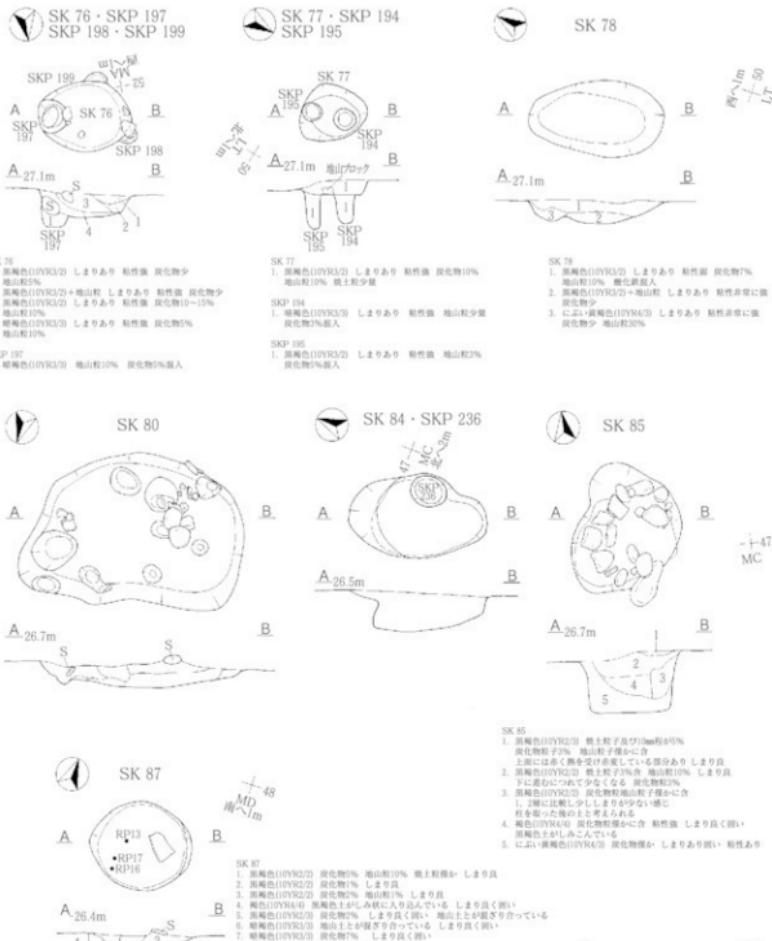
遺構番号	発生位置(グリッド)	平面形	長軸(cm)	短軸(cm)	深さ(cm)	出土遺物	備考
SK 44	LR 49	不整円形	66.0	58.0	14.0		
SK 45	LR 49	梢円形	78.0	60.0	11.0 (26-93)		
SK 47	LR-LQ 49	梢円形	79.0	50.0	25.0 (26-94)		
SK 49	LQ 50	不整円形	128.0	96.0	20.0 (26-95, 96)		
SK 50	LR-LS 51	梢円形	112.0	88.0	32.0 (26-97, 98)		
SK 54	LQ-LS 52-53	不整梢円形	174.0	134.0	82.0 (26-107~116) (31-260) (47-S24) (49-S39)		
SK 55	LR 52	不整梢円形	205.0	140.0	25.0 (26-117~122) (48-S27, S31)		
SK 56	LR 52	不整梢円形	131.0	99.0	17.0 (26-123) (46-S10)		
SK 92	LR 52	不整円形	160.0	136.0	25.0		
SK 93	LQ-LR 52-53	不整梢円形	201.0	147.0	42.0 (49-S43)		

第7図 I区検出遺構(3)一土坑(SK)



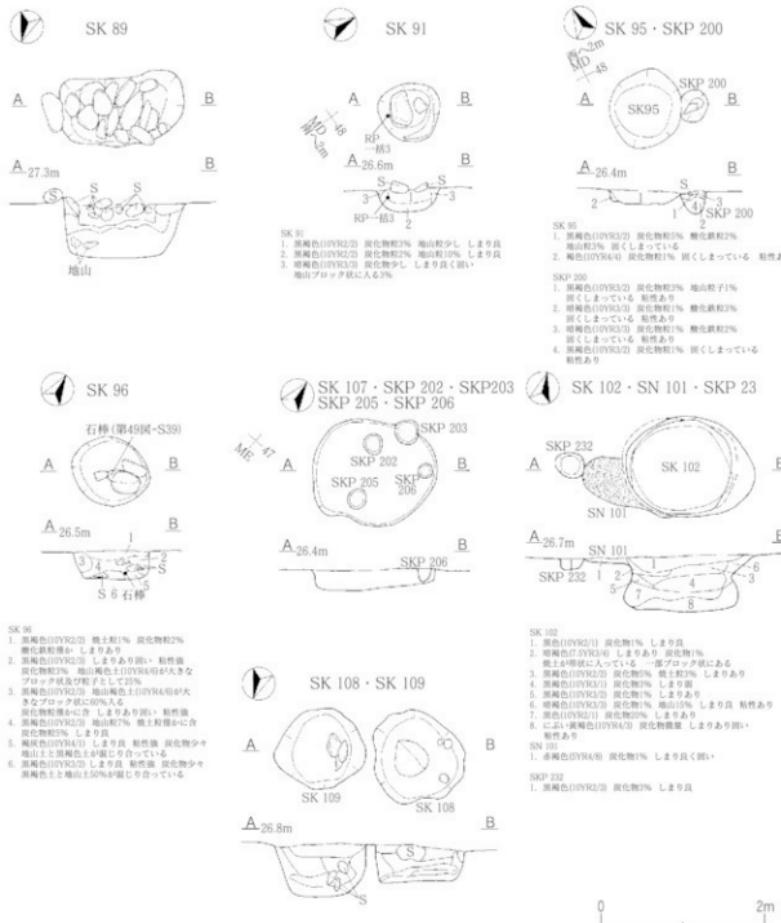
遺構番号	検出位置(グリッド)	平面形	長軸(cm)	短軸(cm)	深さ(cm)	出土遺物	備考
SK 51	LR 51	不整円形	119.0	104.0	40.0	(26-99-106) (49-S42)	
SK 58	MB-MC 51	円形	112.0	94.0	35.0	(26-124) (27-125-128) (46-S8) (47-S16)	
SK 59	MC 50	不整梢円形	86.0	58.0	86.0	(27-129)	
SK 60	MC-MD 50-51	不整円形	147.0	121.0	35.0	(27-130-132) (47-S17, S18)	
SK 64	LS 52-53	椭円形	56.0	37.0	26.0	(27-133, 134)	
SK 65	LT 52	円形	77.0	73.0	52.0	(27-135, 136)	
SK 66	LT 52-53	不整梢円形	155.0	108.0	31.0	(27-137, 138)	
SK 71	LS 52-53	不整梢円形	172.0	120.0	36.0	(27-139, 140) (48-S25)	
SK 75	MA 51-52	不整梢円形	148.0	80.0	46.0	(27-141-156) (28-157) (48-S29, S32)	

第8図 I区検出遺構(4)-一土坑(SK)



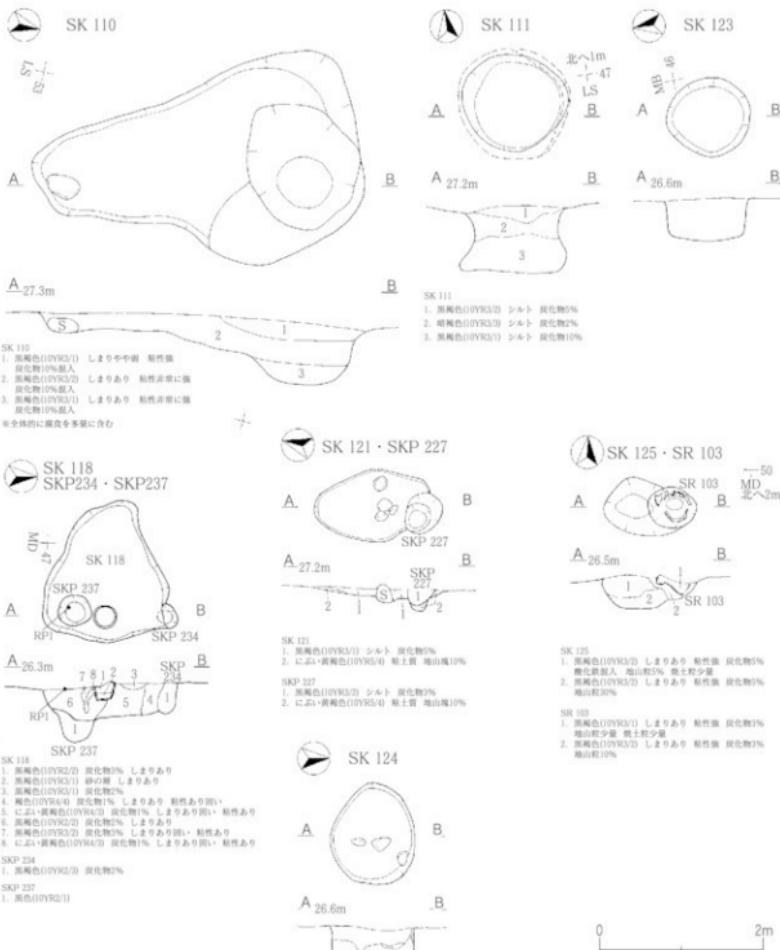
遺構番号	被覆位置(グリッド)	平面形	長軸(cm)	短軸(cm)	深さ(cm)	出土 遺物	備考
SK 76	LT-MA 51-52	不整椭円形	117.0	88.0	43.0	(28-158-163)	
SK 77	LT 50	不整円形	83.0	72.0	57.0	(28-164, 167)	
SK 78	LT 50	不整椭円形	167.0	94.0	29.0	(28-165, 166)	
SK 80	MC-MD 49	不整椭円形	281.0	202.0	33.0	(28-168-172) (43-430)	
SK 84	MC 47	不整椭円形	170.0	104.0	49.0		
SK 85	MC 46-47	不整椭円形	160.0	130.0	74.5	(26-173-177) (29-178-181) (31-263) (46-S3, S4)	
SK 87	MD 47	円形	126.0	110.0	53.0	(29-182-192) (40-362-364)	

第9図 I区検出遺構(5)-土坑(SK)



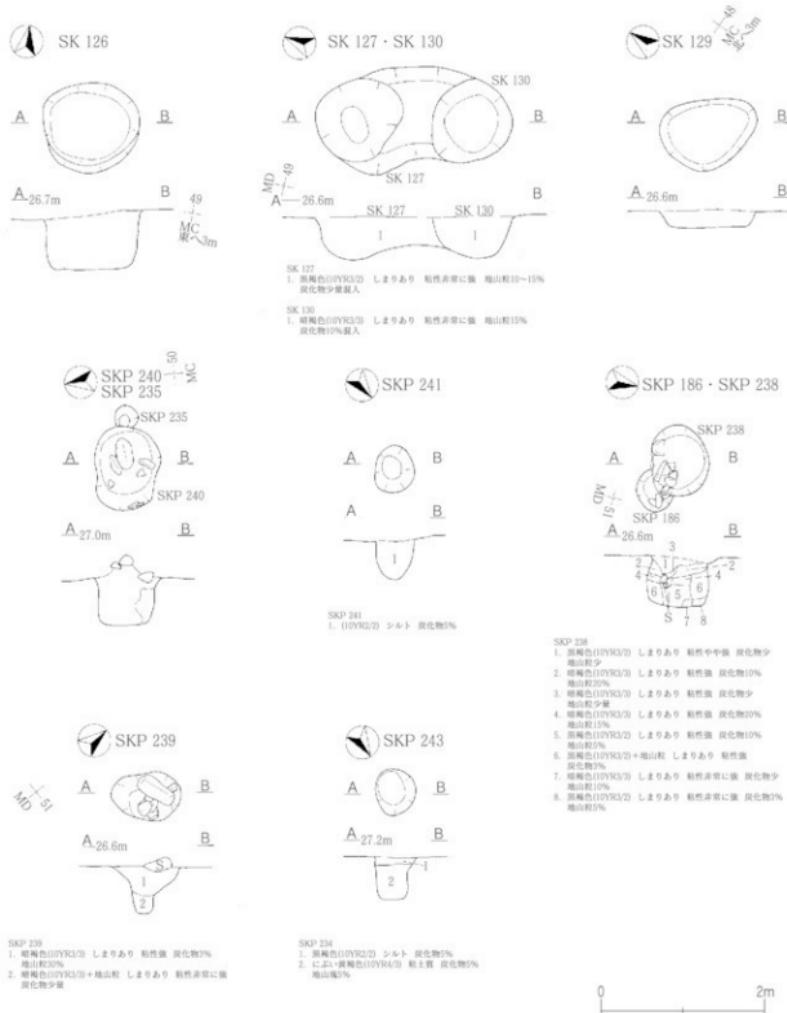
遺構番号	検出位置(グリッド)	平面形	長軸(cm)	短軸(cm)	深さ(cm)	出土遺物	備考
SK 89	LS-LT 49	不整円形	153.0	86.0	65.0		
SK 91	MC 47	不整円形	78.0	76.0	26.0 (29-193~197)		
SK 95	MD 47	不整円形	100.0	89.0	17.0 (29-198~202) (47-S18)		
SK 96	MD 46	不整円形	98.0	83.0	36.0 (29-203, 204) (31-265) (46-S5) (49-S40)		
SN 101	MB 47	(不整円形)	118.0	54.0	7.5 (29-206) (41-407)		
SK 102	MB 47	不整円形	160.0	123.0	69.0 (29-207~211) (41-408~411)		
SK 107	MD 46-47	不整円形	154.0	142.0	25.0		
SK 108	MB 49	不整円形	122.0	109.0	46.0 (29-214) (30-215~218)		
SK 109	MB 49	不整円形	113.0	98.0	64.0 (30-219)		

第10図 I区検出遺構(6)一土坑(SK)・焼土遺構(SN)



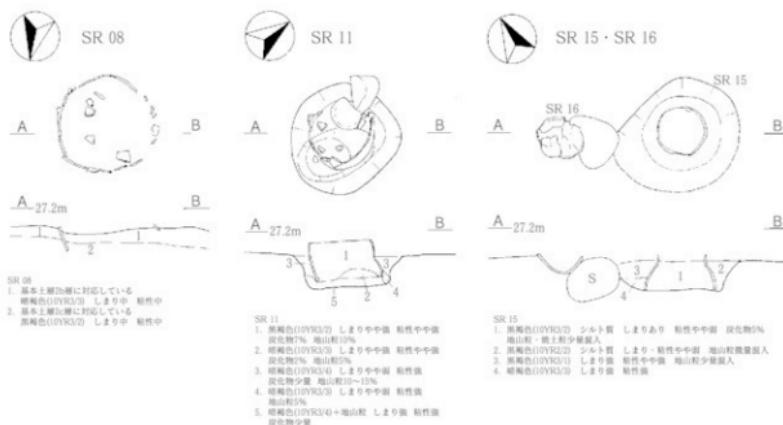
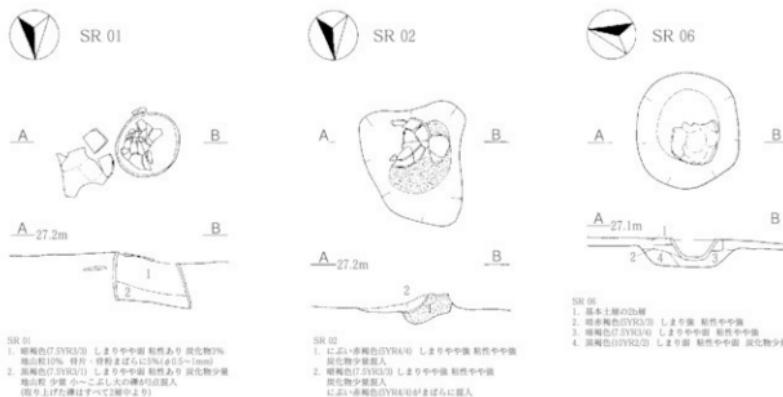
遺構番号	棟位置(グリッド)	平面形	長軸(cm)	短軸(cm)	深さ(cm)	出土 遺物	備考
SK 110	LR·LS 52·53	不整円形	409.0	260.0	76.0 (30-220-222) (47-S22)		
SK 111	LS 47	不整円形	131.0	118.0	84.0 (30-223-230) (46-S11) (47-S20) (48-S33) (49-S35, S42)		
SK 118	MC-MD 45-47	不整円形	182.0	158.0	65.0 (30-231-233)		
SK 121	LS 46	不整円形	143.0	89.0	27.0 (30-234-235) (47-S21)		
SK 123	MB45-46	円形	105.0	97.0	52.0 (30-236-241)		
SK 124	MB-MC48-49	梢円形	128.0	104.0	39.0 (31-242-244)		
SK 125	MD 50	不整円形	106.0	68.0	40.0		
SR 103	MD 50	不整円形	31.0	26.0	12.5 (29-212, 213) (36-302)		

第11図 I区検出遺構(7)一土坑(SK)・土器埋設構造(SR)



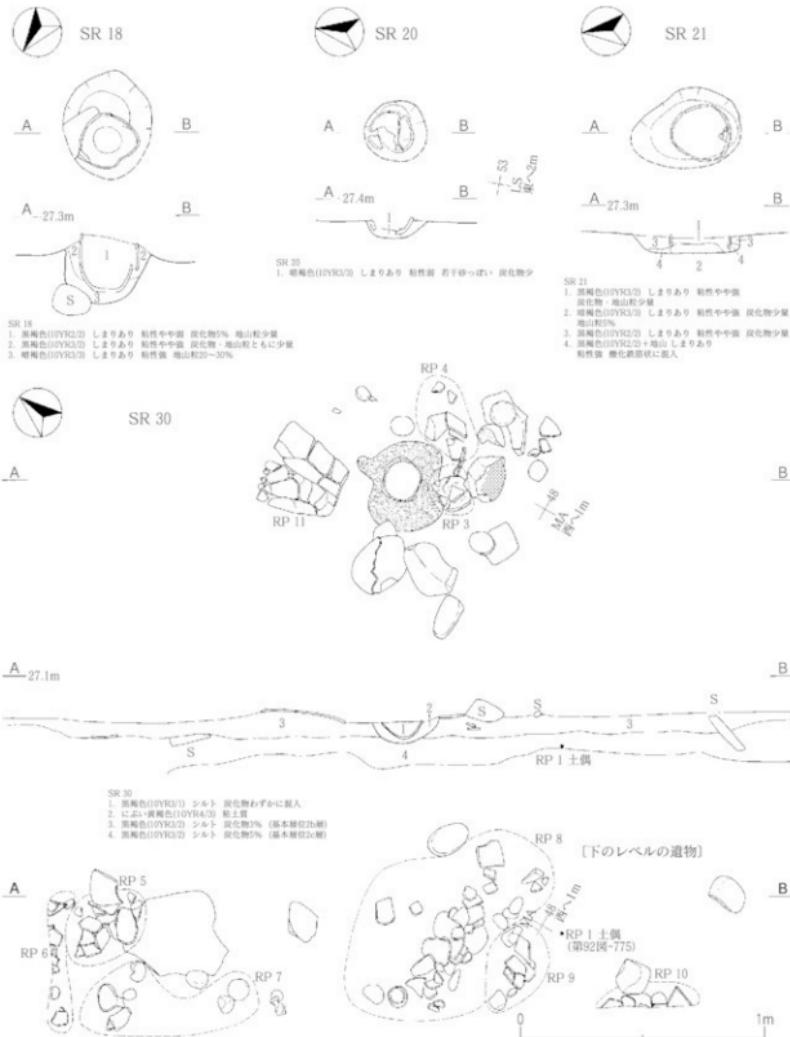
遺構番号	検出位置(グリッド)	平面形	長軸(cm)	短軸(cm)	深さ(cm)	出土遺物	備考
SK 126	MB 49	円形	122.0	115.0	71.0 (31-245~247)		
SK 127	MC 48	不整梢円形	242.0	131.0	54.0 (31-246~250) (48-S28)		
SK 129	MC 48	不整梢円形	121.0	87.0	22.0 (31-251~253) (49-S37)		
SK 130	MC 48	円形	108.0	99.0	52.0 (31-254~259) (46-S6, S7)		

第12図 I区検出遺構(8)一土坑(SK)



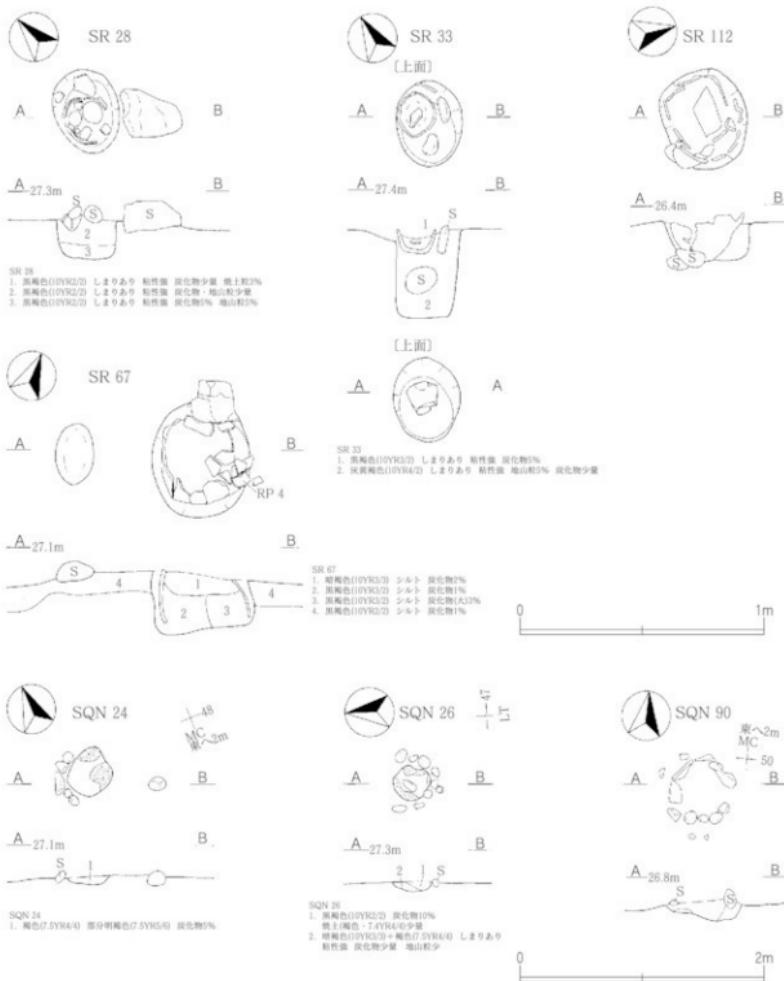
遺構番号	発見位置(グリット)	平面形	長軸(cm)	短軸(cm)	深さ(cm)	出土遺物	備考
SR 01	LT 49	—	—	—	—	(32-267)	
SR 02	LS 47	不整円形	56.0	46.0	11.0	(32-268~270)	
SR 06	LT 47	不整円形	47.5	42.1	11.0	(32-271)	
SR 08	LT 46-47	—	—	—	—	(32-272)	
SR 11	LS 53	不整円形	46.0	44.8	12.5	(33-273)	
SR 15	LT 49	不整円形	53.5	43.0	12.5	(33-274)	
SR 16	LT 49	—	—	—	—	(33-275)	

第13図 I区検出遺構(9)一土器埋設遺構(SR)

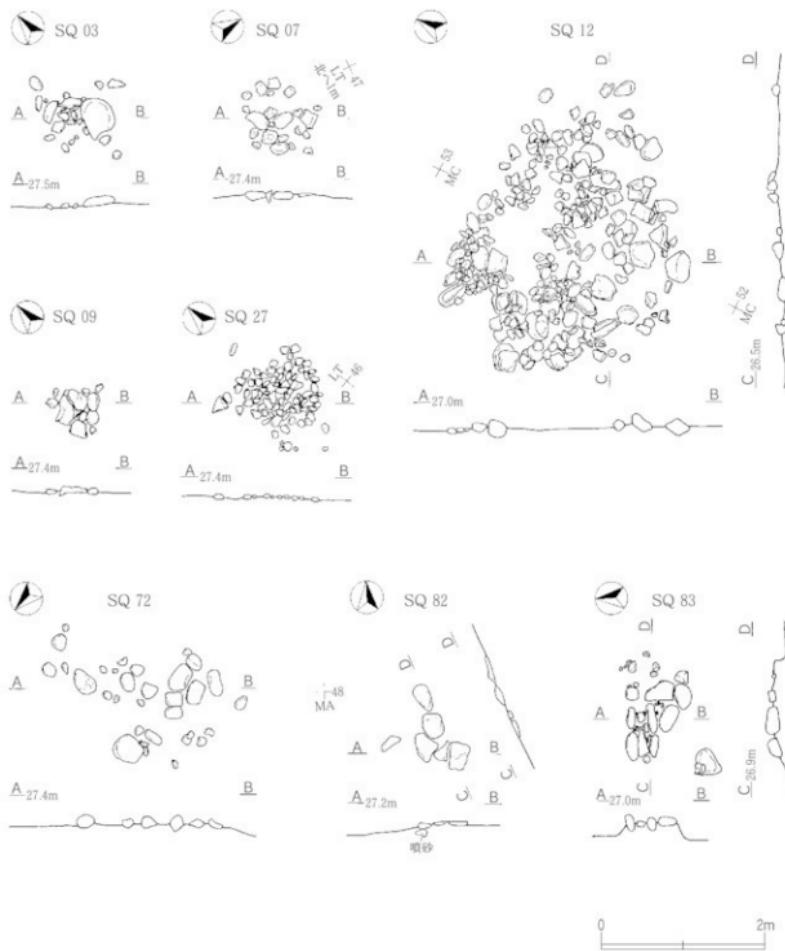


遺構番号	検出位置(グリット)	平面形	長軸(cm)	短軸(cm)	深さ(cm)	出土遺物	備考
SR 18	LS 47	不整梢円形	45.0	36.0	28.0 (34-281)		
SR 20	LR 53	不整円形	26.0	24.5	7.0		
SR 21	LR 52	不整円形	15.5	33.0	7.0 (33-276, 277)		
SR 30	MA 48	不整梢円形	37.0	34.5	8.5 (34-282~291) (35-292) (92-775)		

第14図 I区検出遺構(10)-土器埋設遺構(SR)

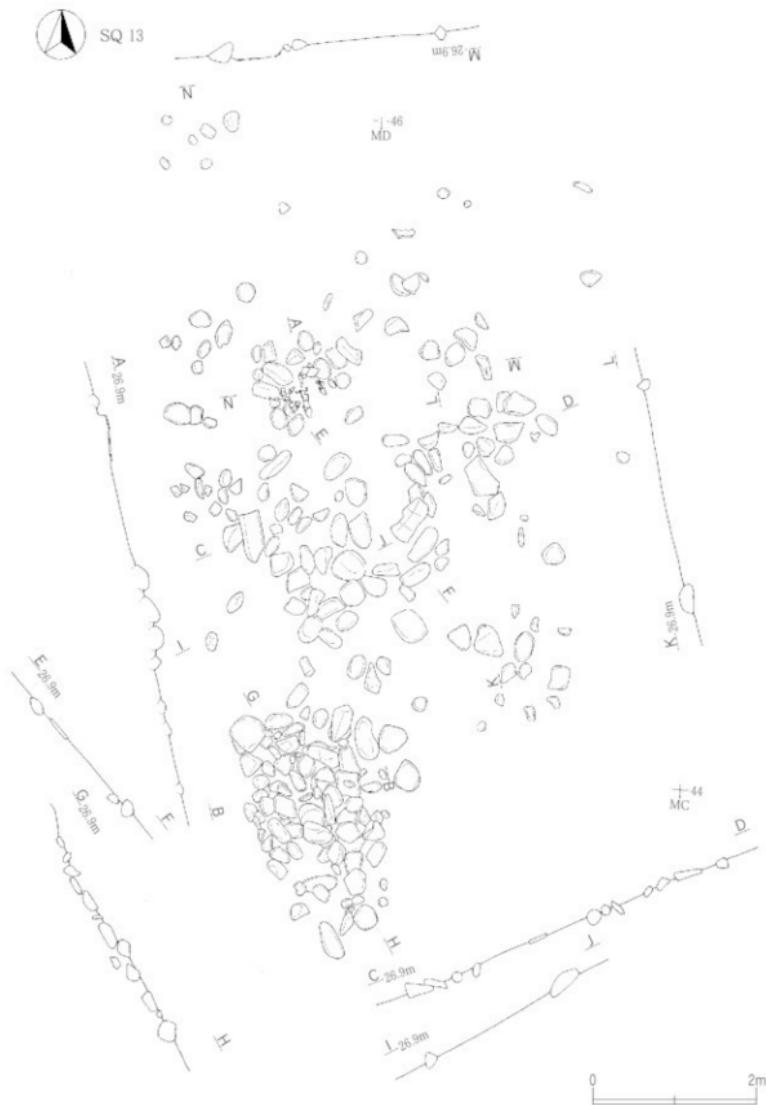


第15図 I区検出遺構(11)一土器埋設遺構(SR)・野外炉(SQN)



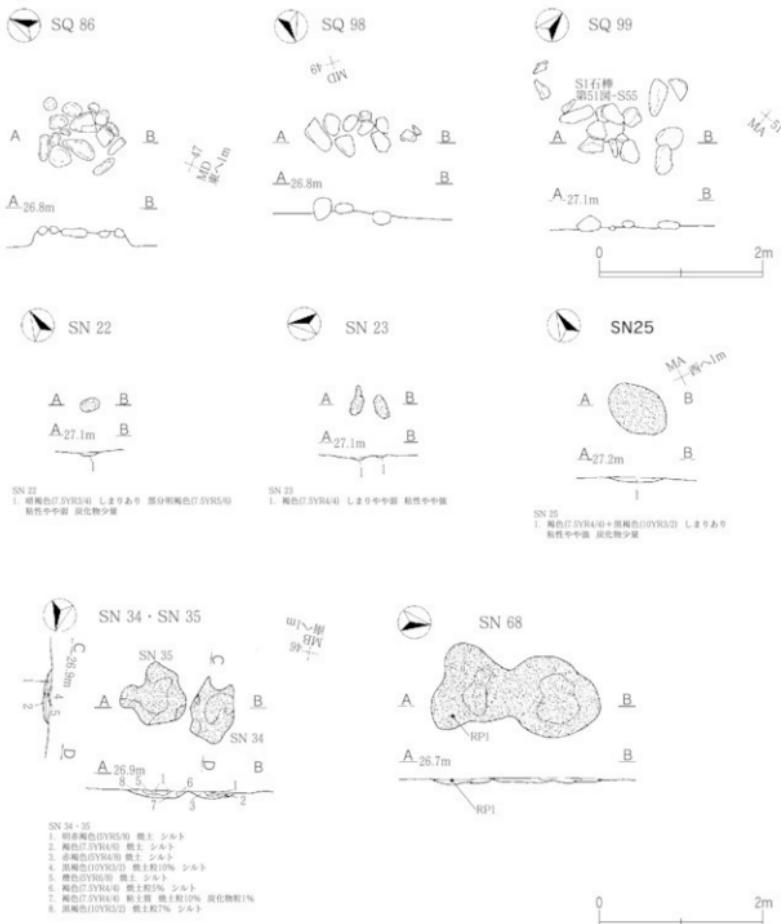
遺構番号	発出位置(グリッド)	平面形	長軸(cm)	短軸(cm)	深さ(cm)	出土遺物	備考
SQ 03	LR 51	不整梢円形	148.0	117.0	—		
SQ 07	LS-LT 46-47	円形	111.0	95.0	—	(50-S50)	
SQ 09	LT 50	不整円形	73.0	67.0	—		
SQ 12	MB-MC 52	不整梢円形	389.0	281.0	—	(38-314~320) (50-S44, S48)	
SQ 27	LT 46	不整円形	174.0	133.0	—		
SQ 72	LT 48	不整梢円形	253.0	147.0	—	(38-333~337) (39-339~353) (51-S53, S54)	
SQ 82	LT 47	不整円形	117.0	97.0	—	(39-354~356) (51-S52)	
SQ 83	MB-MC 83	不整梢円形	178.0	124.0	—		

第16図 I区棟出遺構(12)-配石遺構(SQ)



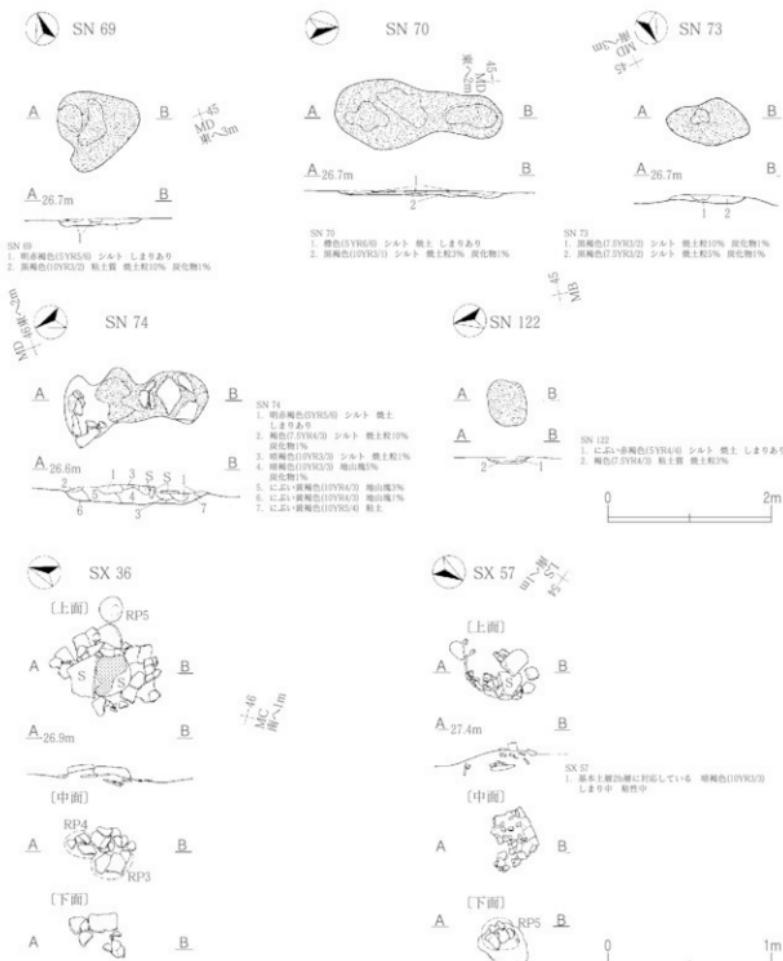
遺構番号	検出位置(グリッド)	平面形	長軸(m)	短軸(m)	深さ(m)	出土遺物	備考
SQ 13	MC-MD 44・45	不整円形	12.5	5.15	—	(38-321～332) (39-338) (40-371) (50-S45, S46, S48, S51)	

第17図 I区検出遺構(13)—配石遺構(SQ)

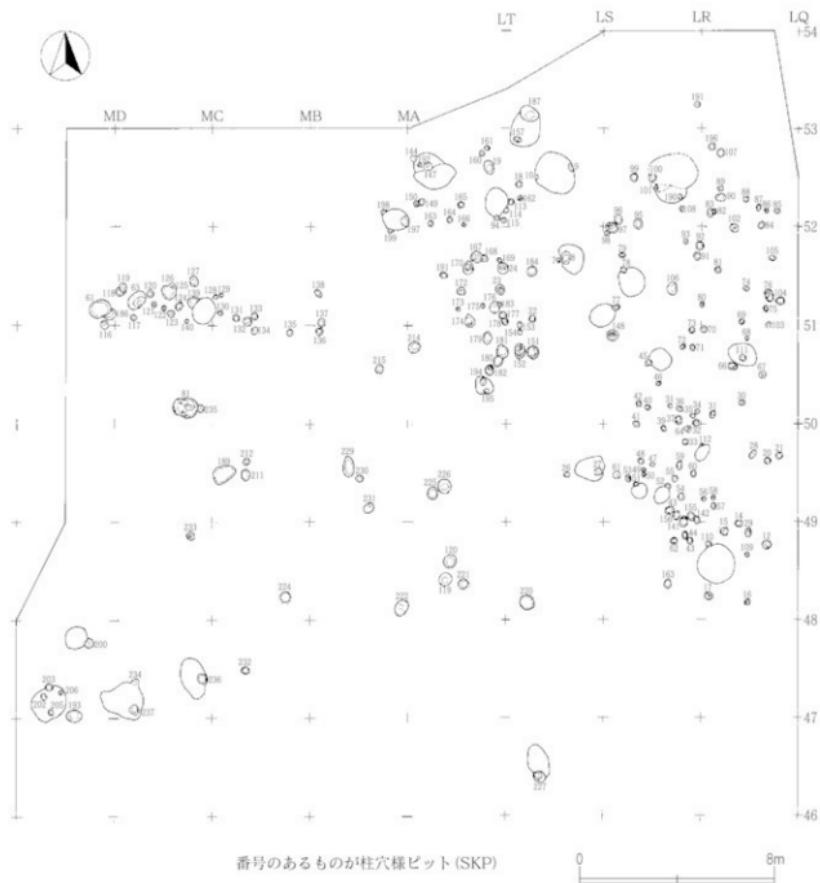


遺構番号	発出位置(グリット)	平面形	長軸(cm)	短軸(cm)	深さ(cm)	出土遺物	備考
SQ 86	MC 47	不整円形	114.5	100.0	—	(39-357) (40-358~361) (50-S47)	
SQ 98	MC-MD 49	不整梢円形	141.5	54.5	—	(40-365~368)	
SQ 99	MA 50	不整梢円形	208.0	147.0	—	(40-369, 370) (51-S55)	
SN 22	MB 48	楕円形	25.0	16.0	4.2		
SN 23	MB 48	楕円形	36.0	13.8	5.6	(40-372, 373)	
SN 25	MA 47-48	不整梢円形	79.0	58.0	5.0		
SN 34	MA 45	不整梢円形	81.0	51.0	8.0	(40-374, 375, 377, 378)	
SN 35	MA 45	不整梢円形	80.0	73.6	9.0	(40-375~378)	
SN 68	MC 45	不整梢円形	210.0	101.0	7.5	(40-379~386)	

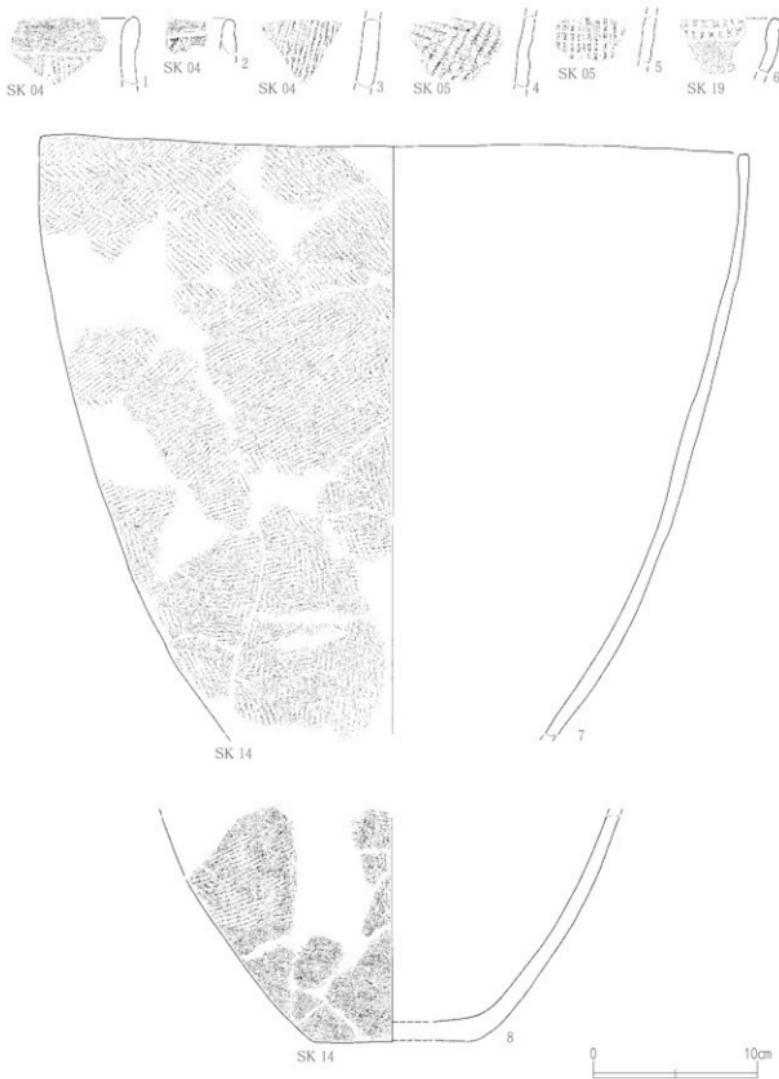
図18区検出遺構(14)-配石遺構(SQ)・焼土遺構(SN)



第19図 I区検出遺構(15)-焼土遺構(SN)・性格不明遺構(SX)

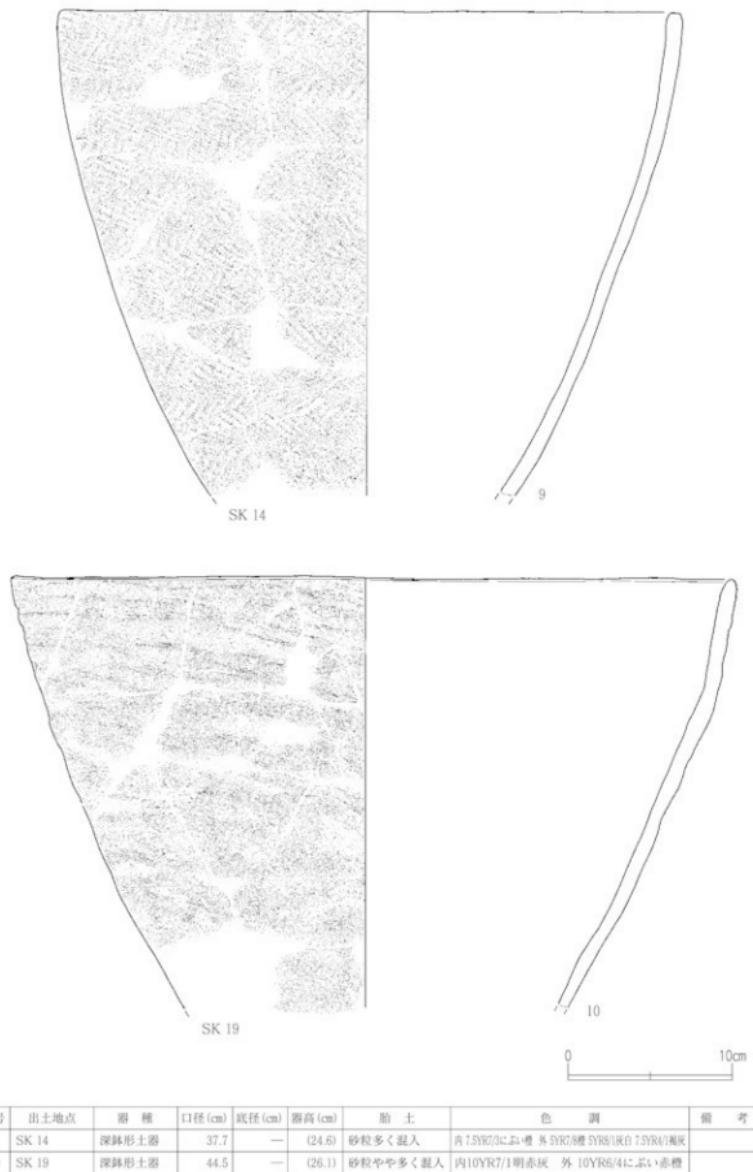


第20図 I区検出遺構(16)一柱穴様ピット (SKP)

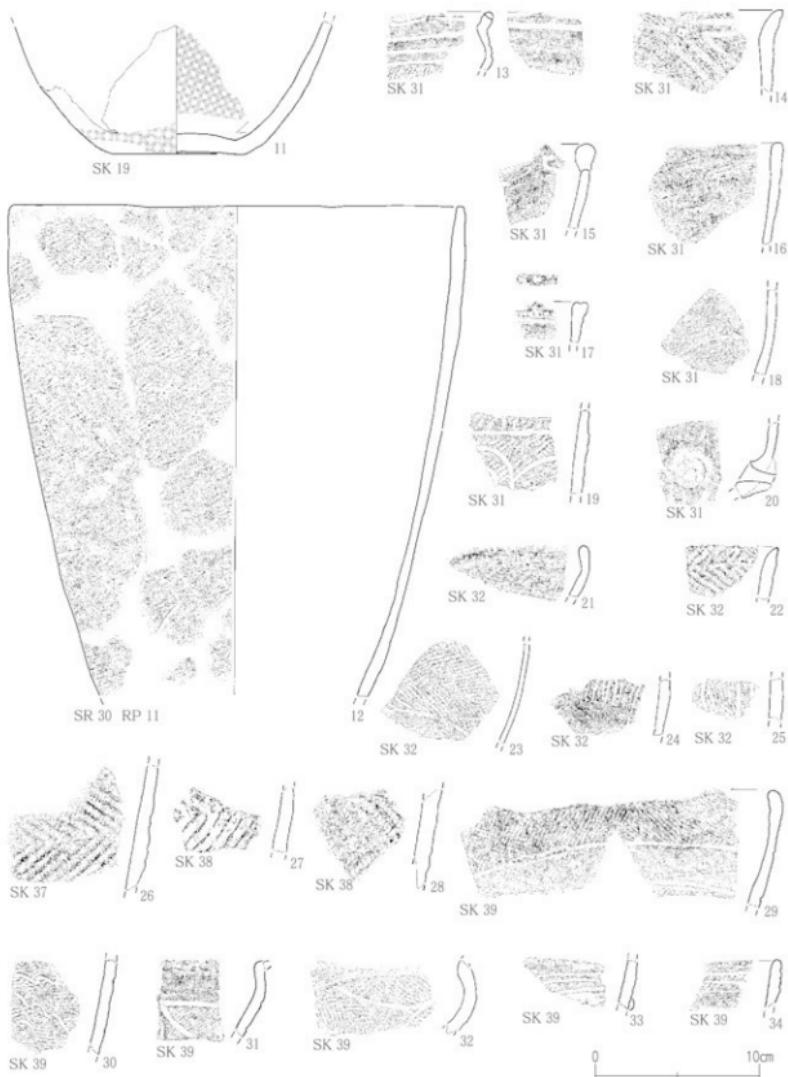


番号	出土地点	器種	口径(cm)	底径(cm)	器高(cm)	胎土	色調	備考
7	SK 14	深鉢形土器	43.2	—	(36.6)	砂粒少量混入	内 7.5YR7/2明褐色 外 6/2灰褐色	
8	SK 14	深鉢形土器	—	(9.8)	(13.7)	砂粒少量混入	内 7.5YR5/1褐色 外 7.5YR7/1明褐色	

第21図 I区 遺構内出土土器(1)



第22図 I区 遺構内出土土器類(2)



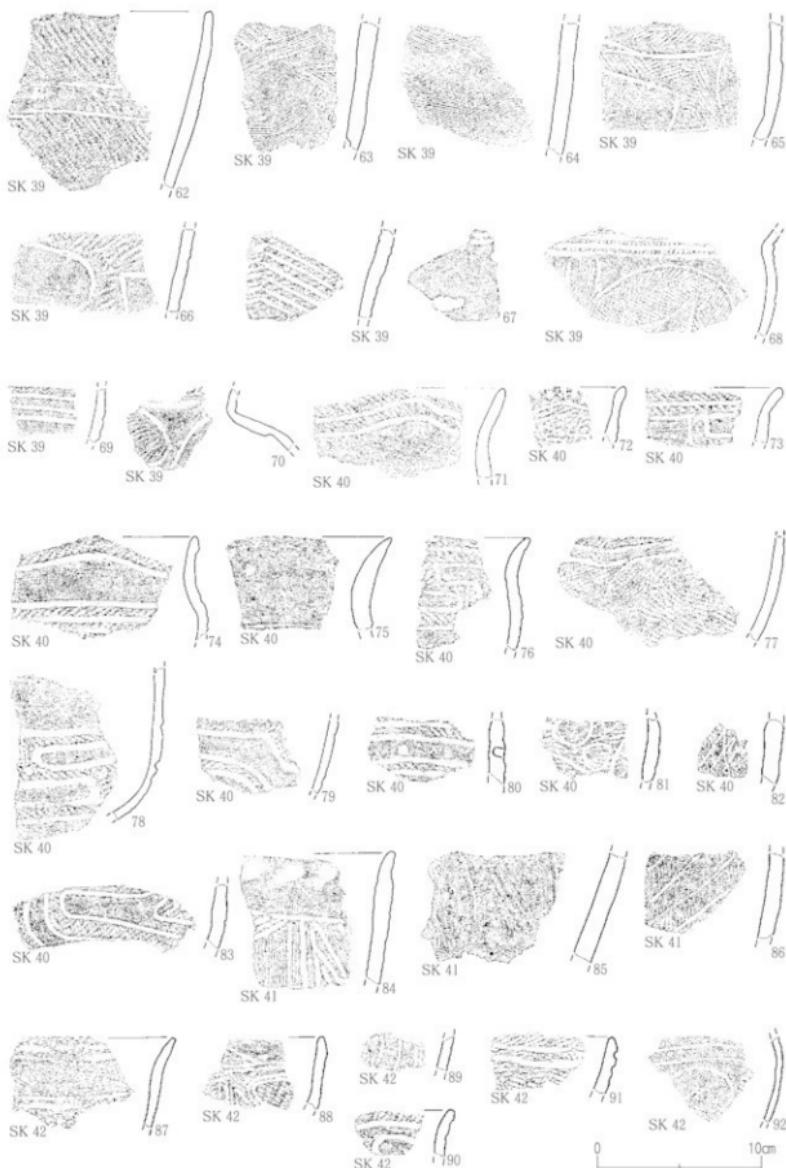
番号	出土地点	器種	口径(cm)	底径(cm)	器高(cm)	胎土	色調	備考
11	SK 19	深鉢形土器	—	8.5	(7.8)	砂粒少量混入	内 10YR4/1褐色 外 10YR7/3にぶい黄橙	黒くなっている範囲あり
12	SR 30 RP 11	深鉢形土器	28.0	—	(29.9)	砂粒や多く混入	内 7.5YR8/3にぶい褐 外 7.5YR8/3にぶい褐	

第23図 I区 遺構内出土土器類(3)



番号	出土地点	器種	口径(cm)	底径(cm)	高さ(cm)	胎土	色調	備考
36	SK 39 RP 19	台付皿形土器か	—	8.1	(10.6)	砂粒少額混入	内 10YR5/3C 黄褐 外 10YR2/2 黒褐 10YR5/2 深黄褐	
42	SK 39	皿形土器	(8.8)	(2.2)	2.6	砂粒やや多く混入	内 7.5YR5/1 暗灰 外 7.5YR4/1 暗灰	

第24図 I区 遺構内出土土器類(4)



第25図 I区 遺構内出土土器類(5)



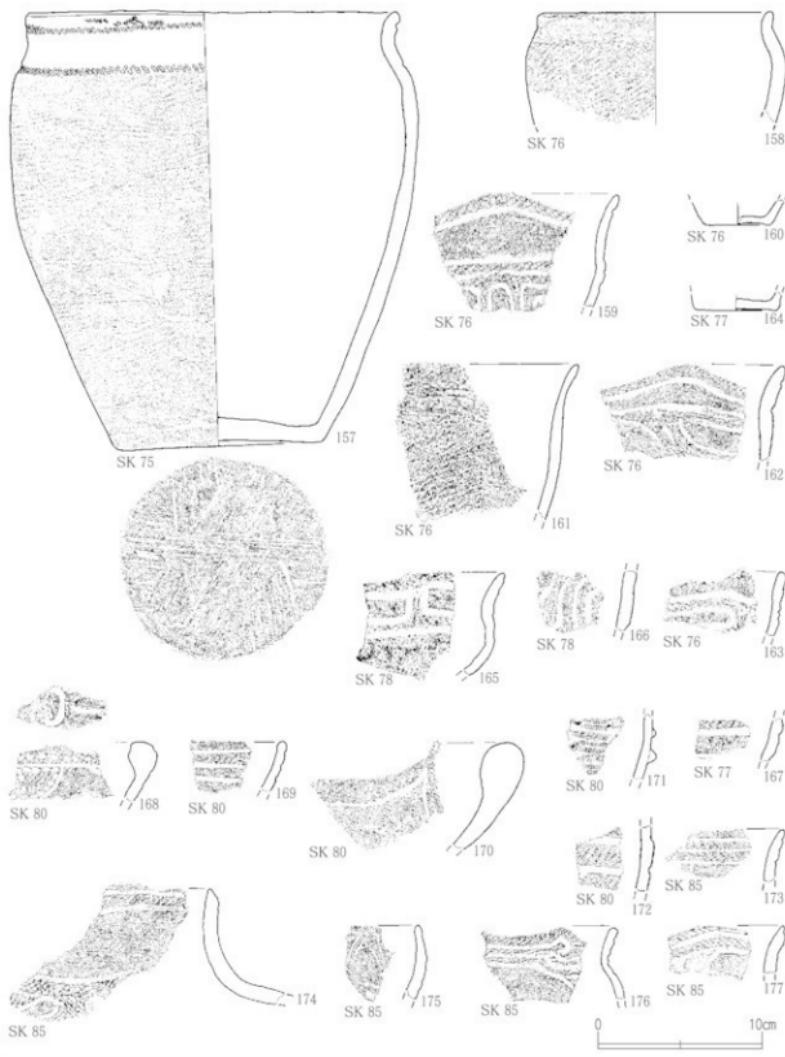
番号	出土地点	器種	口径(cm)	底径(cm)	器高(cm)	胎土	色調	備考
114	SK 54	深鉢形土器か	—	(12.1)	(6.2)	砂粒やや多く混入	内・外とも10YR7/2に近い、黄橙	

第26図 I区 遺構内出土土器類(6)



第27図 I区 遺構内出土土器類(7)

番号	出土地点	器種	口径(cm)	底径(cm)	器高(cm)	胎土	色調	備考
152	SK 75 RP 5	鉢形土器	15.1	7.8	12.0	砂粒少量混入	内 7.5YR3/2黒褐 外 SYR3/1黒褐 2.5YR6/6棕	
156	SK 75	鉢形土器か	—	(5.4)	(2.7)	砂粒少量混入	内 10YR5/1褐灰 外 10YR5/2灰黄褐	



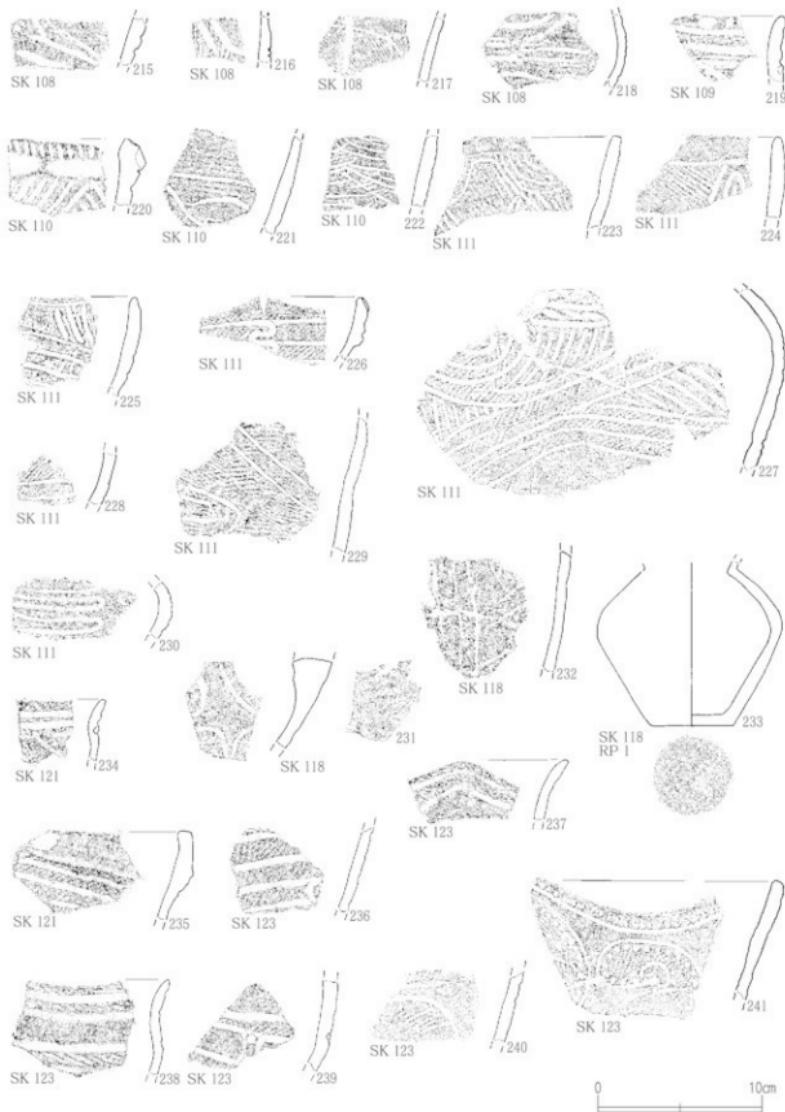
番号	出土点	器種	口径(cm)	底径(cm)	器高(cm)	胎土	色調	備考
157	SK 75	深鉢形土器	21.4	12.6	26.6	砂粒や少額混入	内 10YR8/1灰白 外 10YR7/1灰白	
158	SK 76	深鉢形土器か	(13.7)	—	(6.8)	砂粒や少額混入	内 10YR8/3浅黄橙 外 SYR7/4にぶい橙 7.5YR7/2明兩灰	
160	SK 76	レギア型頭附か	—	(4.0)	(1.4)	精造	内 10YR7/6橙 外 10YR4/1褐灰	
164	SK 77	レギア型頭附か	—	(5.0)	(1.0)	精造	内 10YR8/4にぶい黄橙 外 10YR5/3にぶい黄褐	

第28図 I区 遺構内出土土器類(8)

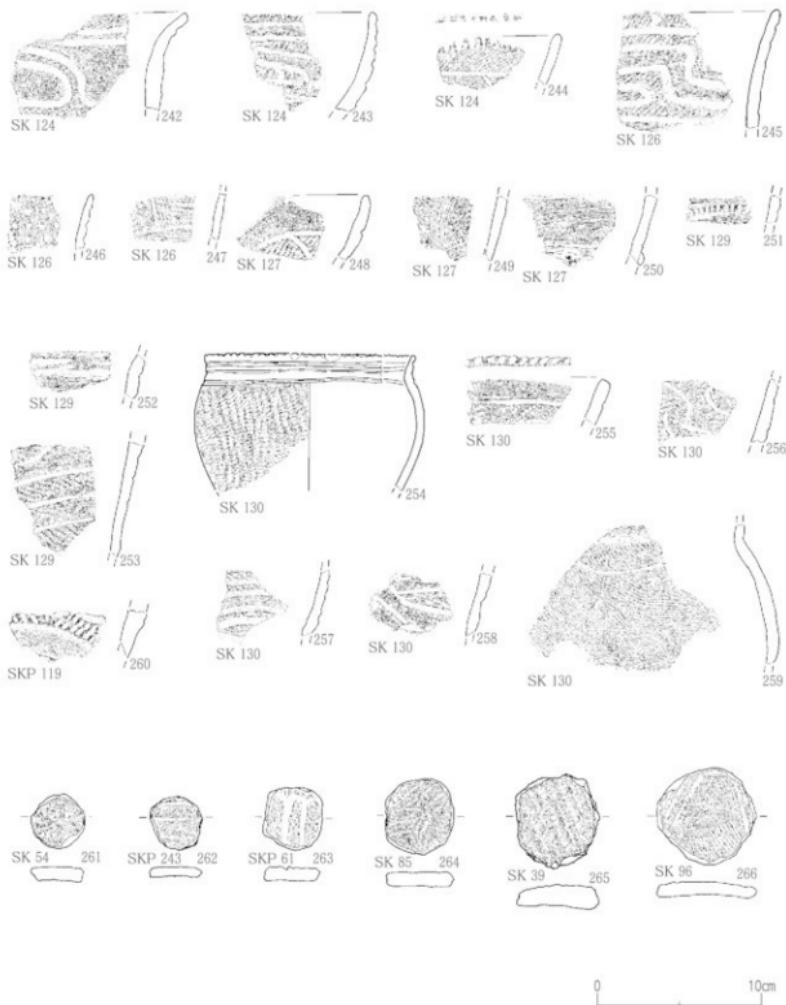


第29図 I区 遺構内出土土器類(9)

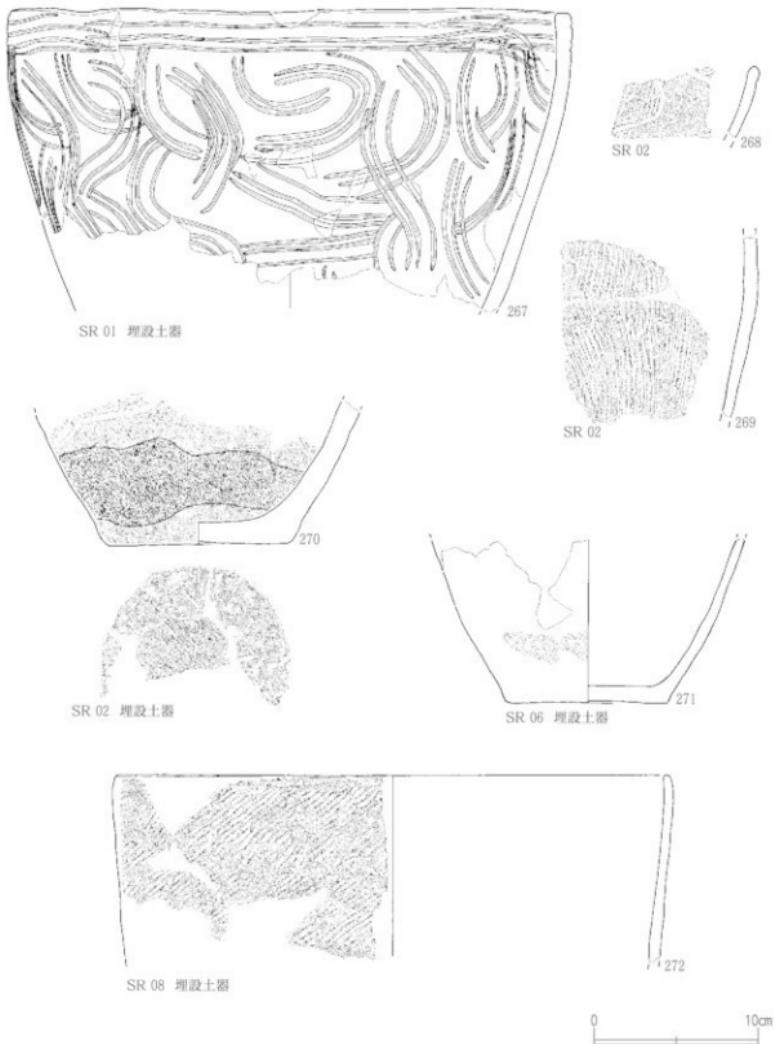
番号	出土地点	器種	口径(cm)	底径(cm)	器高(cm)	胎土	色調	備考
185	SK 87 RP 13-16-17	深鉢形土器6+	—	—	7.4 (8.1)	砂粒や多く混入	内・外とも10YR6/3にぶい黄褐	
195	SK 91	ミナフ土器頭部	—	—	3.5 (5.2)	精造	内 10YR6/1褐灰 外 10YR6/2灰黄褐	
196	SK 91 RP 1-3	深鉢形土器	12.6	5.5	11.4	砂粒多く混入	内 7.5YR3/1黒褐 外 7.5YR3/1黒褐	



第30図 I区 遺構内出土土器類(10)

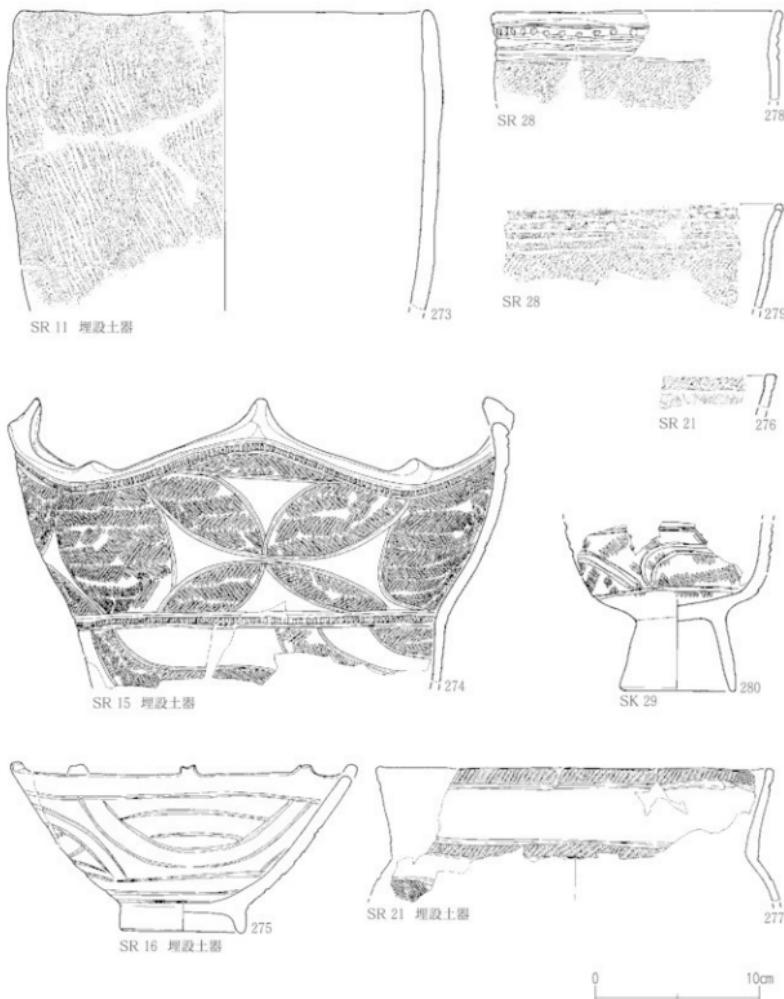


第31図 I区 遺構内出土土器類(11)



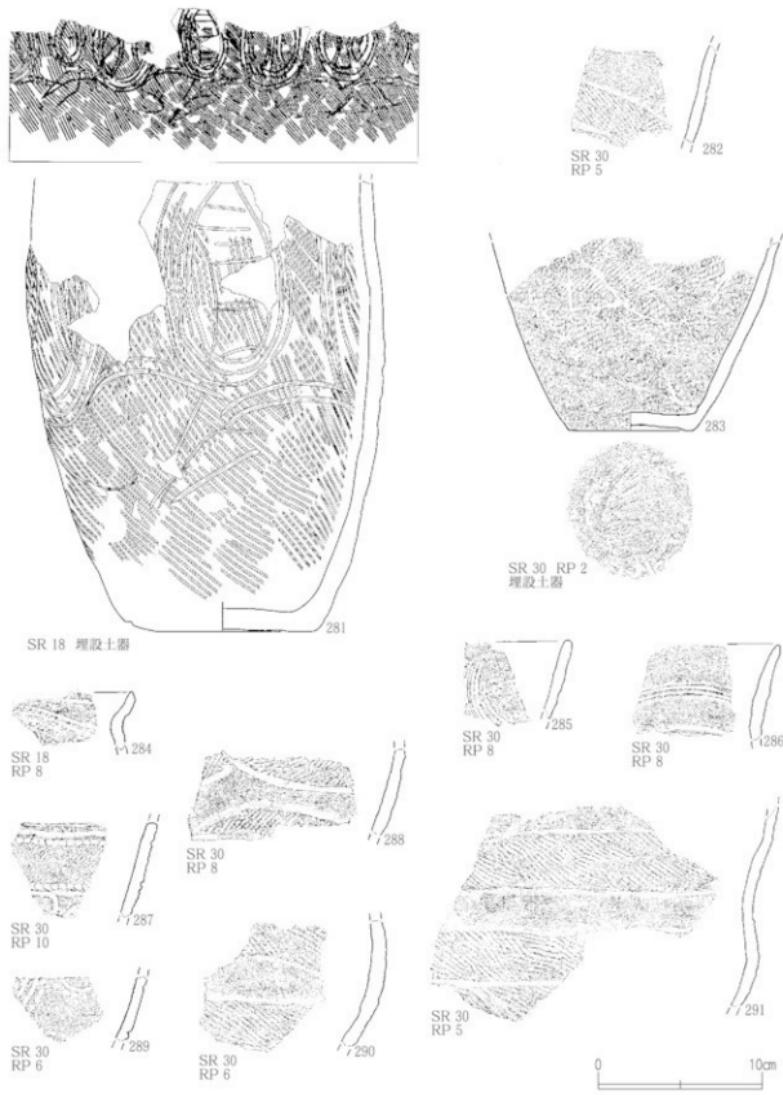
番号	出土地点	器種	口径(cm)	底径(cm)	器高(cm)	胎 土	色 調	備 考
267	SR 01	深鉢形土器	34.1	—	(17.9)	砂粒少額混入	内 SYR7/3に赤・橙 外 SYR7/4に赤・橙 SYR5/1褐色	
270	SR 02	深鉢形土器	—	11.2	(8.0)	砂粒やや多く混入	内 10YR8/3浅黄橙 外 10YR8/3浅黄橙 SYR7/6橙	赤変している
271	SR 06	深鉢形土器	—	9.8	(9.3)	砂粒やや多く混入	内 7.5YR6/2灰褐 外 7.5YR8/2灰白 7.5YR7/6橙	赤変している
272	SR 08	深鉢形土器	(34.0)	—	(11.1)	砂粒少額混入	内 5YR4/1褐色 外 5YR7/6橙	

第32図 I区 遺構内出土土器類(12)

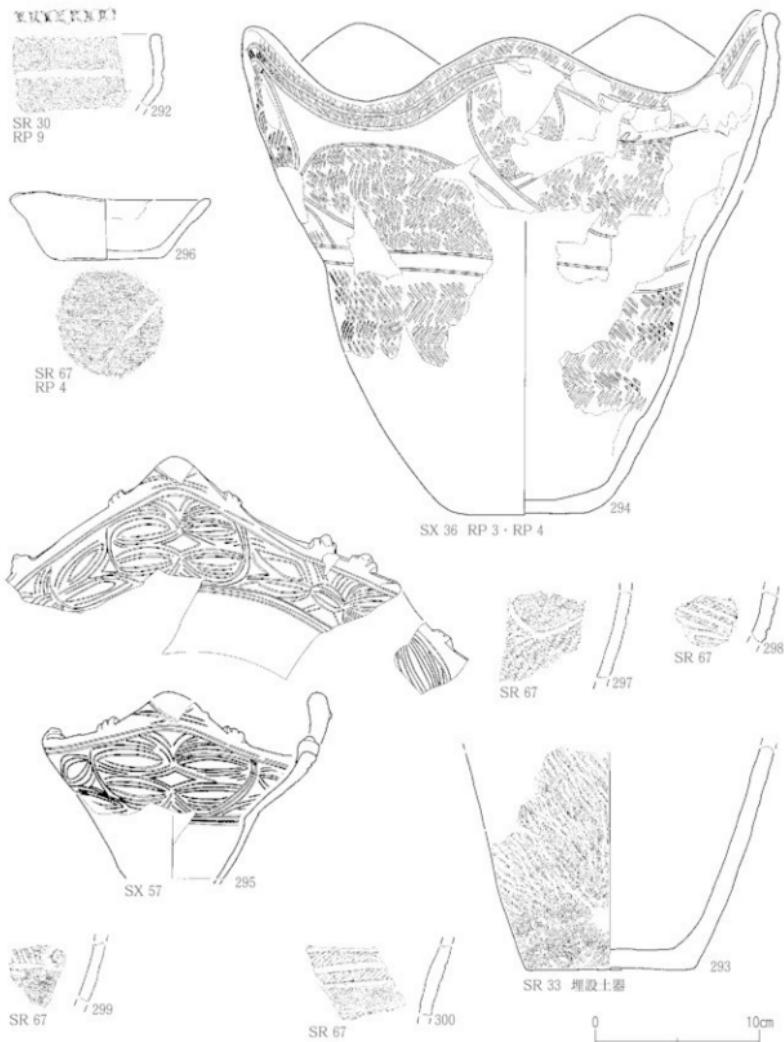


番号	出土地点	器種	口径(cm)	底径(cm)	器高(cm)	胎土	色調	備考
273	SR 11	深鉢形土器	25.1	—	(18.3)	砂粒少量混入	内 5YR6/4に赤い模 外 7.5YR6/3に赤い模	
274	SR 15	深鉢形土器	27.6	—	(17.1)	精選	内 5YR7/4に赤い模 外 5YR7/4に赤い模 5YR5/2灰黒	
275	SR 16	台付鉢形土器	(20.8)	7.8	10.2	精選	内 7.5YR6/1褐灰 外 7.5YR5/1褐灰	
277	SR 21	深鉢形土器	(24.4)	—	(8.0)	砂粒少量混入	内 7.5YR8/2灰白 外 7.5YR5/1褐灰	
278	SR 28	深鉢形土器	(18.0)	—	(5.4)	砂粒少量混入	内 7.5YR8/2灰白 外 5YR6/1褐灰	
280	SK 29	台付鉢形土器か	—	5.7	(10.3)	砂粒少量混入	内 7.5YR7/4に赤い模 外 5YR5/3明赤褐 7.5YR6/4に赤い模	

第33図 I区 遺構内出土土器類(13)

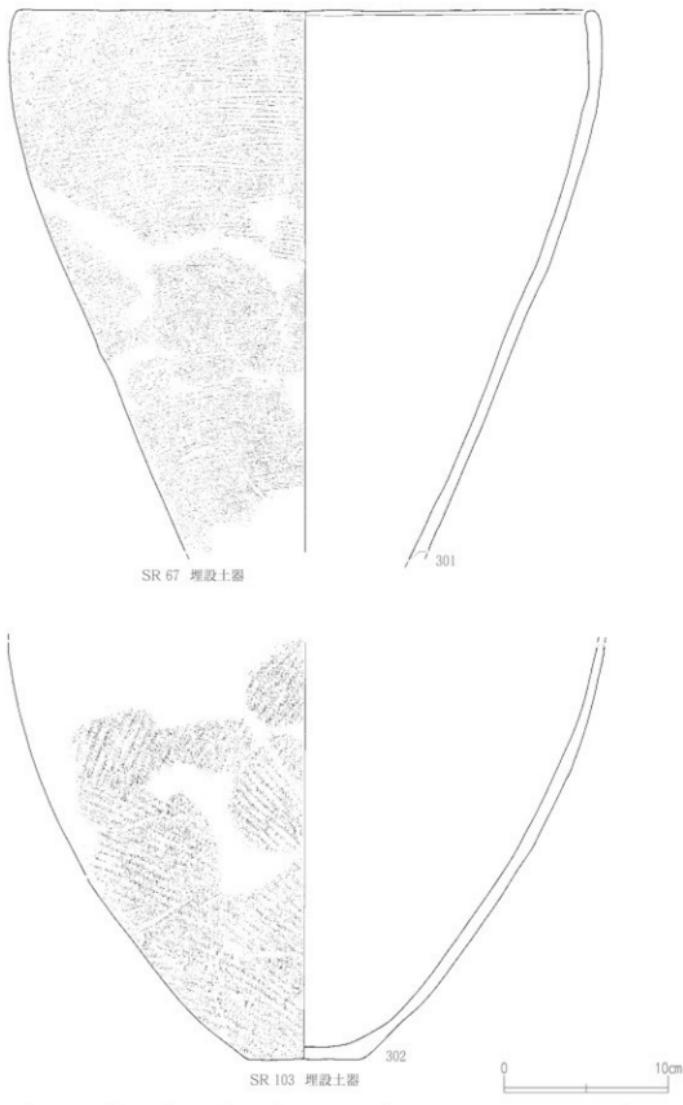


第34図 I区 遺構内出土土器類(14)



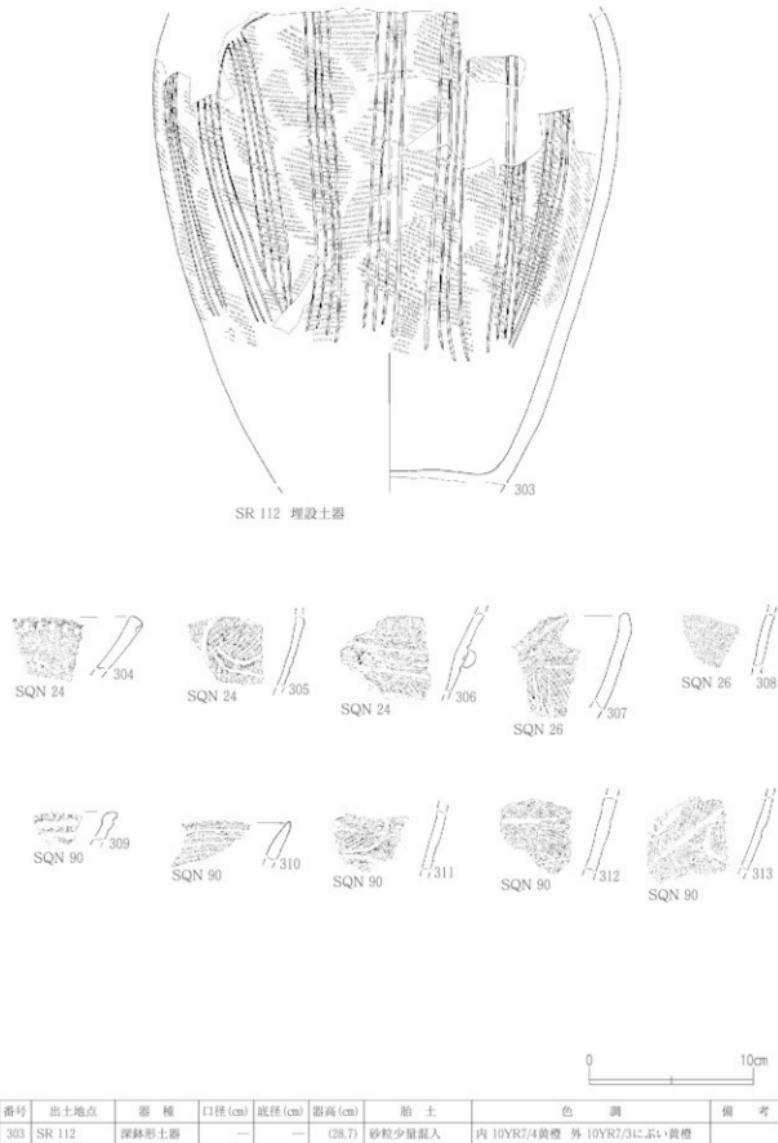
第35図 I区 遺構内出土土器類(15)

番号	出土地点	器種	口径(cm)	底径(cm)	器高(cm)	胎土	色調	備考
293	SR 33	深鉢形土器	—	10.2	(13.2)	砂粒少量混入	内 10YR7/1明赤灰 外 10YR8/6赤橙	
294	SX 36 RP 3·4	深鉢形土器	33.5	8.2	30.6	砂粒や多く混入	内 7.5YR7/2明褐灰 7.5YR8/1褐灰 外 7.5YR7/4にぶい褐	
295	SX 57	壺形土器	18.0	—	11.3	精選	内・外とも 7.5YR8/2灰白	
296	SR 67 RP 4	皿形土器	12.2	6.8	4.2	砂粒や多く混入	内 10YR8/2灰白 外 10YR7/3にぶい黄橙	



第36図 I区 遺構内出土土器類(16)

番号	出土地点	器種	口径(cm)	底径(cm)	高さ(cm)	胎土	色調	備考
301	SR 67	深鉢形土器	35.4	—	(33.0)	砂粒少種混入	内 5YR8/1灰白 外 5YR8/1灰白	
302	SR 103	深鉢形土器	—	7.0	(25.3)	砂粒やや多く混入	内 7.5YR8/4浅黄橙 外 7.5YR8/1灰白	



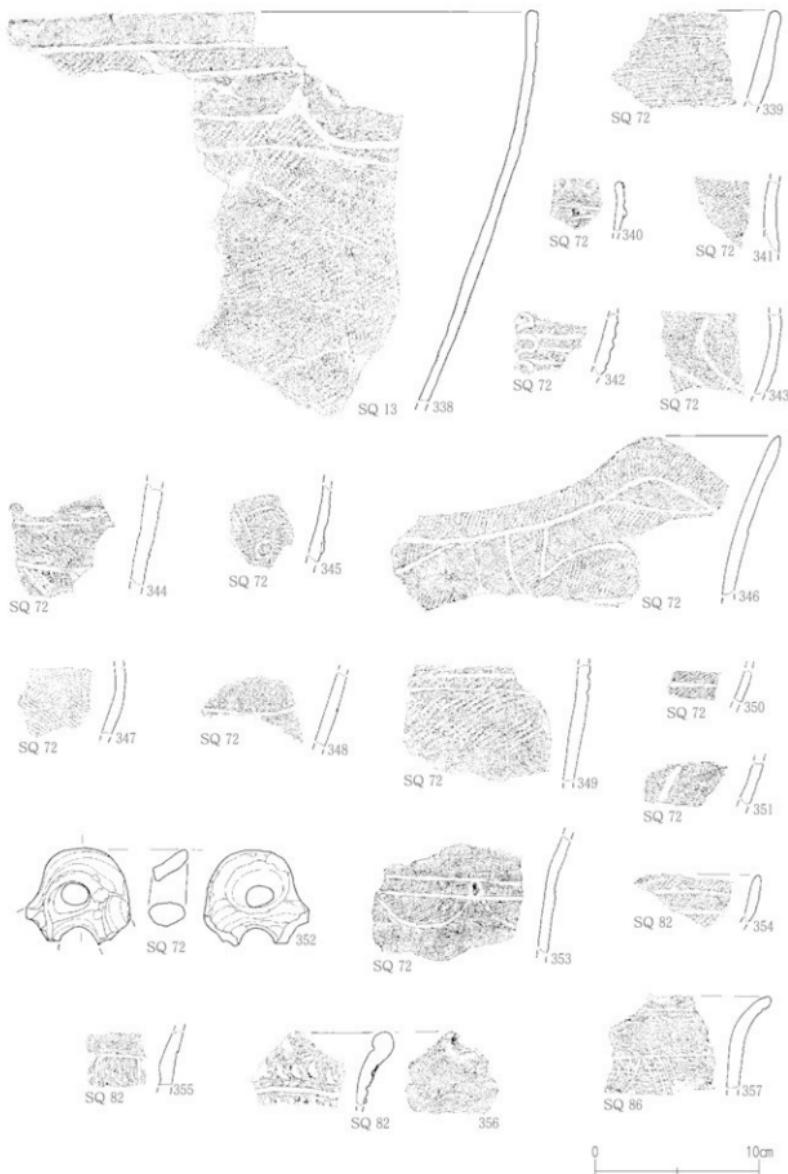
第37図 I区 遺構内出土土器類(17)



0 10cm

番号	出土地点	器種	口径(cm)	底径(cm)	高さ(cm)	胎土	色調	備考
332	SQ 13	深鉢形土器	15.4	5.9	16.6	砂粒少量混入	内 7.5YR2/1黒色 外 7.5YR5/1褐灰	
336	SQ 72	深鉢形土器か	—	4.8	(1.8)	砂粒少量混入	内 10YR7/2に赤い黄橙 外 10YR7/1灰白	

第38図 I区 遺構内出土土器類(18)



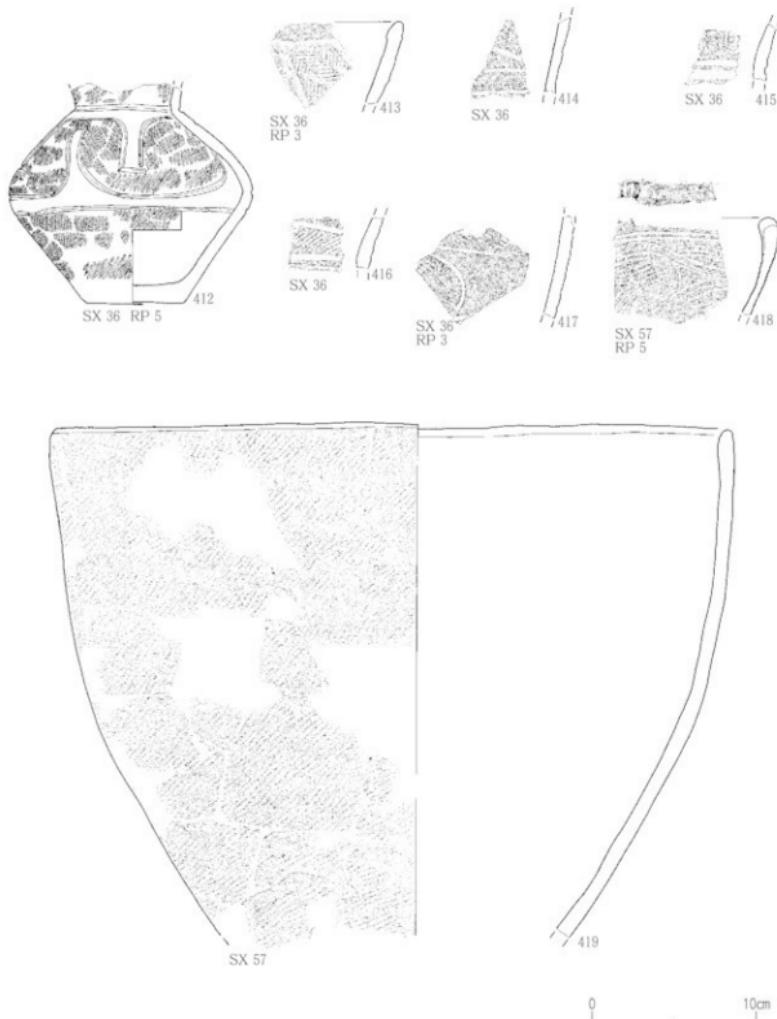
第39図 I区 遺構内出土土器類(19)



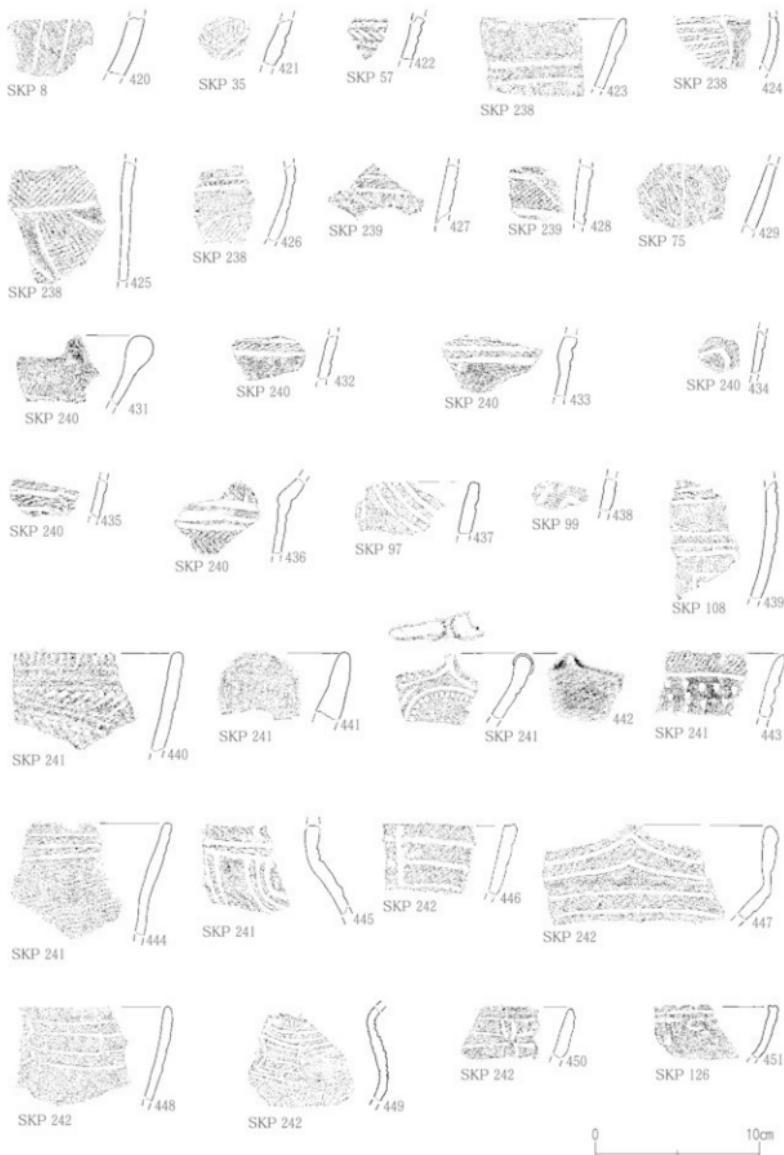
第40図 I区 遺構内出土土器類(20)



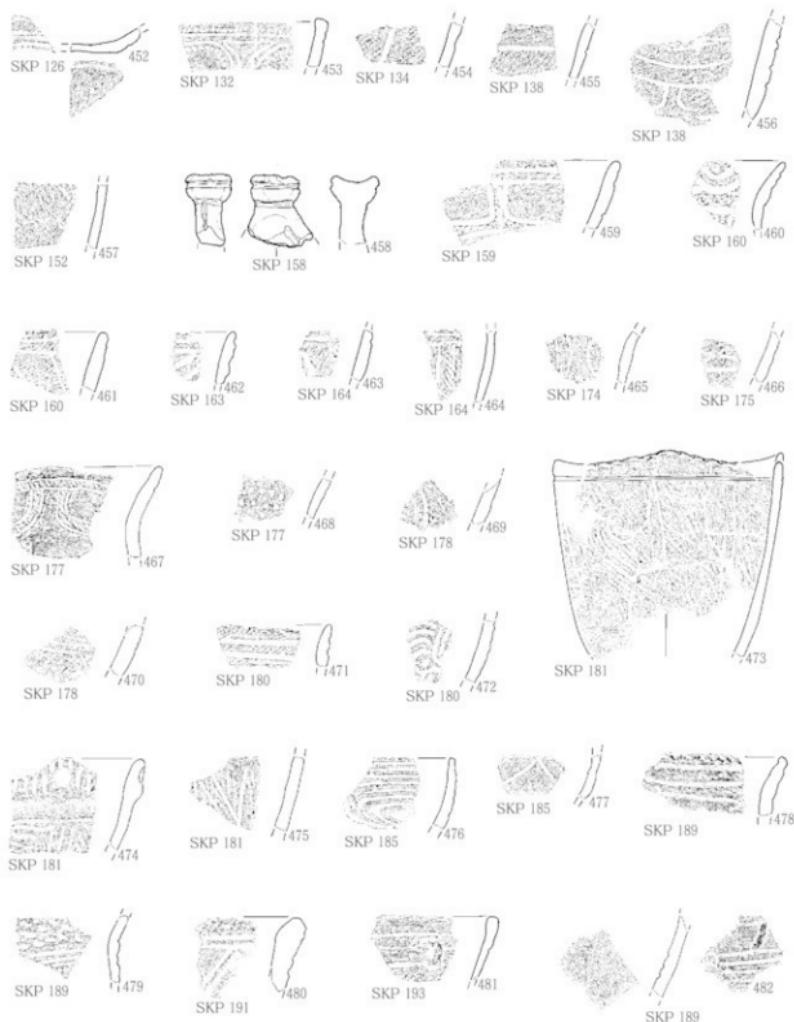
第41図 I区 遺構内出土土器類(21)



第42図 I区 遺構内出土土器類(22)



第43図 I区 遺構内出土土器類(23)



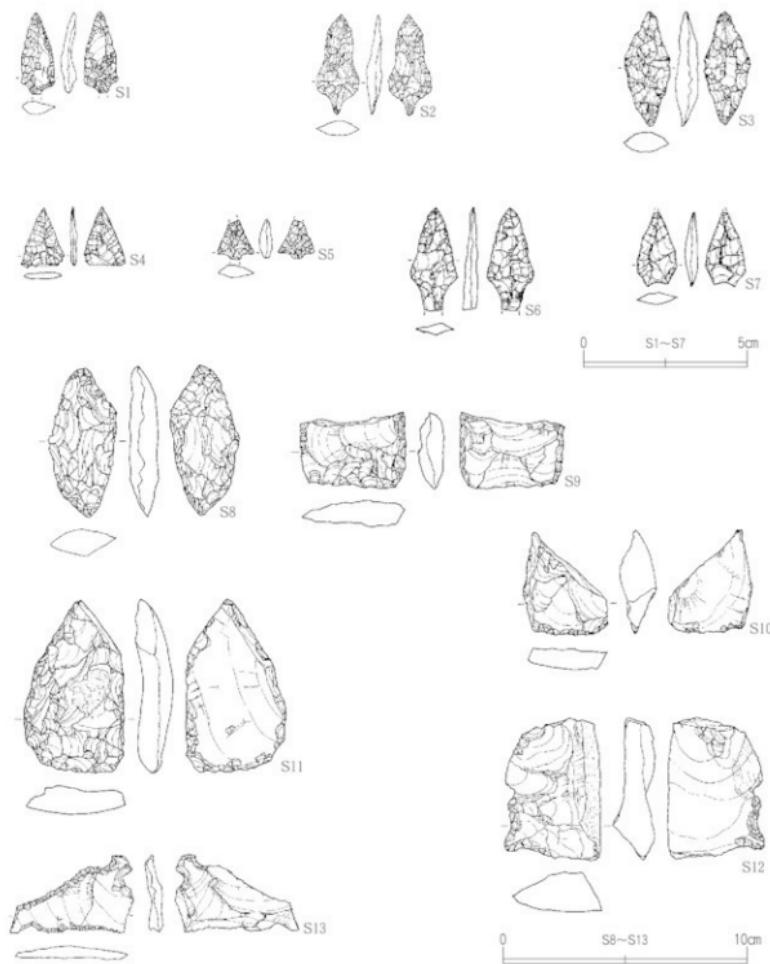
0 10cm

番号	出土地点	器種	口径(cm)	底径(cm)	高さ(cm)	胎土	色調	備考
473	SKP 181	深鉢形土器	(15.8)	—	(12.5)	砂粒少量混入	青(IV)青(IV)に赤(Ⅳ)青(Ⅳ)各(IV)青(IV)に赤(Ⅳ)青(Ⅳ)2段剥離	

第44図 I区 遺構内出土土器類(24)



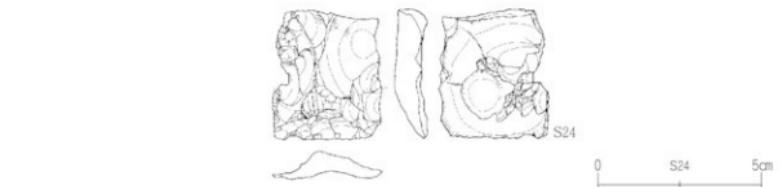
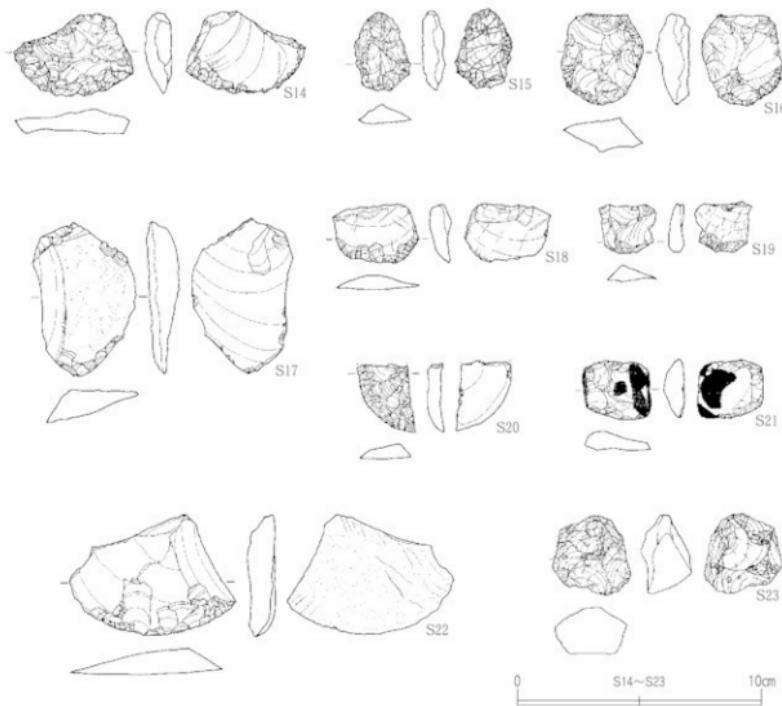
第45図 I区 遺構内出土土器類(25)



番号	出土地点	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重さ(g)	名 称
S1	SK 37	2.5	1.1	0.5	0.8	石鏃
S2	SK 51	3.1	1.3	0.5	1.3	石鏃
S3	SK 85	3.5	1.4	0.7	3.1	石鏃
S4	SK 85	1.3	1.3	0.2	0.4	石鏃
S5	SK 96	1.2	1.5	0.4	0.3	石鏃
S6	SK 130	3.2	1.5	0.4	1.4	石鏃
S7	SK 130	2.3	1.3	0.3	0.9	石鏃

番号	出土地点	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重さ(g)	名 称
S8	SK 58	6.2	2.8	1.2	18.5	石槍
S9	SK 40	3.0	4.3	1.1	15.5	石鏃
S10	SK 56	4.2	3.5	1.5	15.0	石鏃
S11	SK 111	7.1	4.1	1.5	38.3	石鏃
S12	SK 31	5.8	3.9	1.7	33.2	ビエス-エスキュー
S13	SK 39	3.2	5.0	0.7	6.6	石鏃

第46図 I 区 遺構内出土石器類(1)



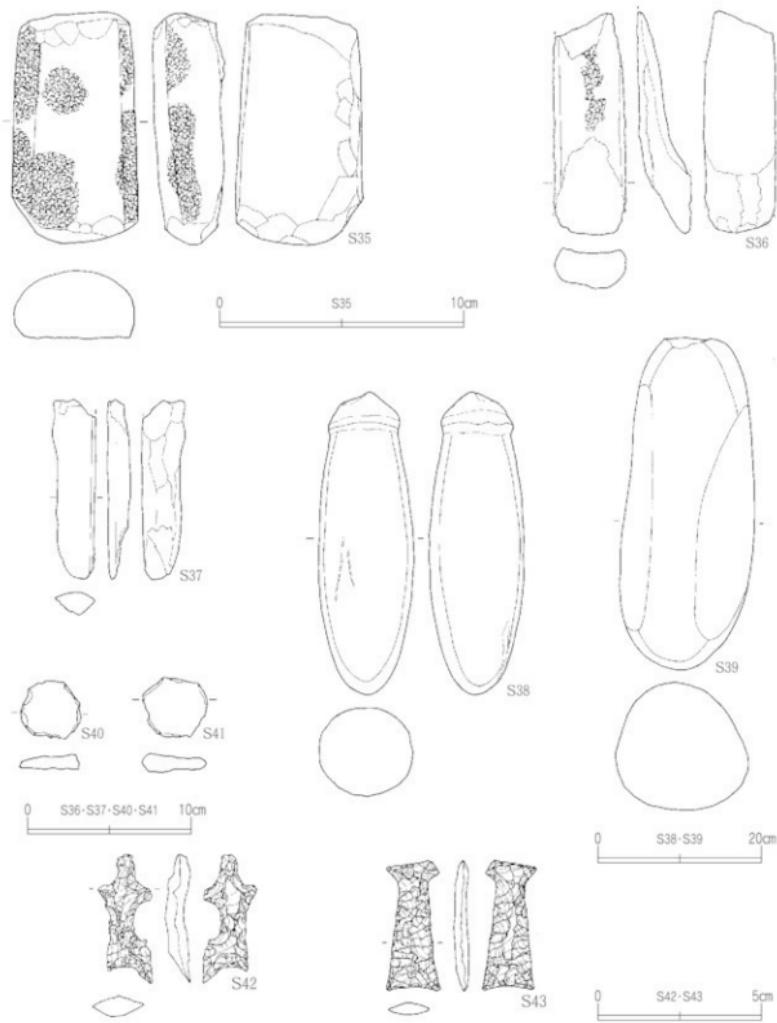
第47図 I区 遺構内出土石器類(2)



番号	出土地点	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重さ(g)	名 称
S25	SK 71	2.8	1.3	0.6	1.3	フリイク
S26	SK 39	3.6	6.6	2.0	53.2	ストレイバー
S27	SK 55	5.1	3.2	1.3	16.7	石錐
S28	SK 127	5.6	3.7	1.7	26.5	石錐
S29	SK 75	3.1	2.2	0.9	3.4	ストレイバー

番号	出土地点	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重さ(g)	名 称
S30	SK 40	6.3	4.0	2.3	110.3	磨製石斧
S31	SK 55	5.2	2.0	1.0	15.8	磨製石斧の加工品
S32	SK 75	5.3	3.9	1.9	52.4	磨製石斧
S33	SK 111	6.1	5.0	3.3	137.3	磨製石斧
S34	SK 118	2.3	2.5	1.0	10.4	磨製石斧

第48図 I区 遺構内出土石器類(3)

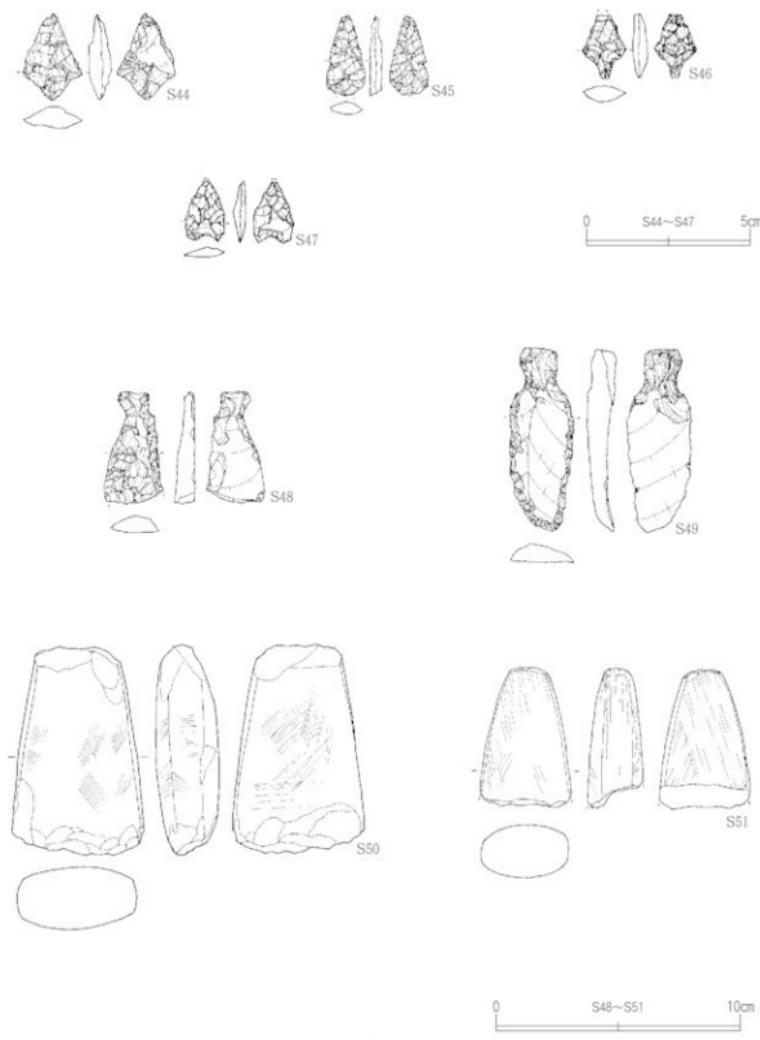


番号	出土地点	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重さ(g)	名 称
S35	SK 111	9.5	5.2	3.1	250.0	石斧
S36	SK 39	13.6	4.4	3.2	159.1	磨製石斧
S37	SK 129	11.0	2.6	1.4	49.4	石棒
S38	SK 54 RQ 8	37.2	12.7	11.6	4900.0	石棒
S39	SK 96	40.6	16.3	15.5	12600.0	石棒

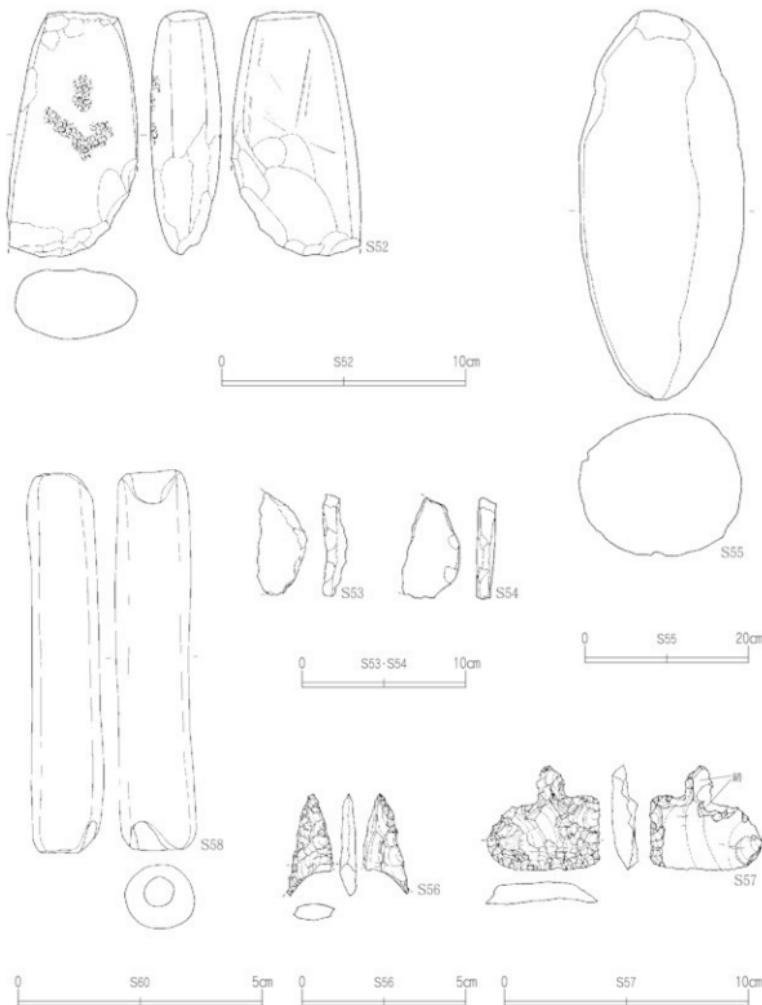
  

番号	出土地点	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重さ(g)	名 称
S40	SK 31	3.4	3.7	0.9	18.3	円盤状石製品
S41	SK 51	3.6	3.8	1.2	19.4	円盤状石製品
S42	SK 111	4.0	1.7	0.8	3.2	異形石器
S43	SK 93	4.1	1.7	0.4	2.7	異形石器

第49図 I区 遺構内出土石器類(4)



第50図 I区 遺構内出土石器類(5)



番号	出土地点	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重さ(g)	名 称	番号	出土地点	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重さ(g)	名 称
S52	SQ 82	10.0	5.3	2.9	228.0	磨製石斧	S56	SQN 90	(3.2)	1.5	0.6	1.4	石鏹
S53	SQ 72	6.3	3.0	1.5	24.1	円盤状石製品	S57	SQN 90	4.3	4.7	1.1	15.4	石匙
S54	SQ 72	6.2	3.5	1.2	32.4	円盤状石製品	S58	SK 5011 RQ 2	7.8	1.7	1.5	28.6	管玉
S55	SQ 99 S 1	47.7	20.1	17.4	17500.0	石棒							

第51図 I 区 遺構内出土石器類(6)・V 区 遺構内出土石器類